

第11回石川県書写書道教育研究大会

は　じ　め　に

昨年12月、第11回石川県書写書道教育研究大会を金沢にて開催しましたところ、県内各地より書写書道教育にたずさわっておられます多数の先生方のご参加を得、貴重なご意見ご指導をいただき、大変実りある研究会となりました。研究大会の開催にお力添えを賜りました石川県教育委員会・金沢市教育委員会をはじめ、関係の方々、ご参加いただいた先生方に改めて厚く御礼申し上げます。

新教育課程の完全実施が間近に迫り、そのねらいの実現に向けて、各学校ではさまざまな議論・検討がなされているものと思います。「総合的な学習の時間」・「選択授業」・「情報教育」等と従来に加えてのさまざまな学習スタイルが幅広く展開されていく中、その基礎基本の力としての「書写力」の重要性はますます高くなっていくことを誰もが理解しています。しかし、一方では、その思いや願いとは逆に、児童生徒になかなかその力が備わっていないという実態の報告も聞かれます。どのようにして力を育ていけばよいのか、具体的な手だてはどうすればよいのか等、実践に向けての悩みはつきないところでもあります。

今大会において、第一部では全国で発表された研究実践をもとに、第二部では本連盟の先生方の実践をもとにこれからの書写書道教育のあり方について熱心な討論がなされました。皆様方の熱意あるご意見・ご指導によって、今後の実践に向けて確かな一歩を進めることができたように思います。

本県書写書道教育のさらなる発展の一助となることを願って、大会の内容を研究集録としてまとめて発刊させていただくこととなりました。皆様方のご助言・ご指導をいただきますれば誠に幸いと存じます。

末筆ながら、会員各位のますますのご健勝と研究・教育に向けてのご精進を心から祈念いたします。

平成 13年 3月 30日

石 川 県 書 写 書 道 教 育 連 盟

会 長 藤 則 雄

目 次

1. はじめに	1
2. 第11回石川県書写書道教育研究大会要項	3
3. パネルディスカッション報告	7
「書写書道教育における今日的課題—全国の実践を受けて—」	
4. 研究協議会報告	
実践発表レポート	
「授業実践にむけての具体的手だてを探る—県内の実践から—」	
—小中学校—	
◇「興味・関心を高め、基礎基本の定着をはかる手立て」	15
—5年・カレンダー作りを通して—	
柿 木 千 鶴 (松任市立松南小学校)	
◇「児童の意欲を高める『揭示』の試み」	32
—3年・パソコン・ホームページの活用—	
新 谷 幸 一 (津幡町立条南小学校)	
◇「生徒の興味・関心を高め、芸術科書道へとつなげる試み」	36
—3年・選択授業における取り組み—	
岩 田 稚 子 (金沢市立高岡中学校)	
—高等学校—	
◇「臨書から創作(漢字仮名交じり)の書へのひとつの試み」	44
—自分が大切にしたい言葉の表現—	
田 中 学 (県立金沢中央高等学校)	
研究協議会のまとめ	49
5. 石川県書写書道教育連盟のあゆみ	51
6. 平成12年度石川県書写書道教育連盟役員一覧	55
7. 石川県書写書道教育連盟規約	57

平成12年12月7日(木)

第11回

石川県書写書道教育研究大会

金沢勤労者プラザ

大会テーマ

「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」

主催：石川県書写書道教育連盟

後援：石川県教育委員会

：金沢市教育委員会

：石川県私立幼稚園協会

日程

10:00～

受付
(1ロビー)

10:40～12:10

パネル
ディスカッション
(1F 大研修室)

12:10～13:30

昼食
(理事会)

13:30～16:00

研究協議会
(1F 大研修室)

(敬称略)

開会 (10:30)

挨拶 石川県書写書道教育連盟会長 藤 則雄

パネルディスカッション (10:30~12:10)

テーマ「書写書道教育における今日的課題～全国の実践を受けて～」

1部 (小中学校)

コーディネーター	林 昭悦 (石川県立津幡高等学校)
レポーター	八田和幸 (金沢市立港中学校)
パネラー	林道子 (金沢市立三馬小学校)
	福島絹子 (金沢市立長田中学校)
アドバイザー	高 絹子 (石川県教育委員会七尾地方教育事務所)

2部 (高等学校)

コーディネーター	林 昭悦 (石川県立津幡高等学校)
レポーター	酒井喜久子 (石川県立河北台商業高等学校)
	田中 学 (石川県立金沢中央高等学校)
パネラー	久田英夫 (石川県立金沢伏見高等学校)
	押木 秀樹 (上越教育大学助教授)
アドバイザー	塩 泰尚 (石川県教育委員会学校指導課)

12:10~13:30 昼食休憩

参加者 (大研修室): 理事会 (3F・第3実習室)

研究協議会(13:30~16:00)

*司会者 中川晃成(野々市町立菅原小学校) 本間千恵(石川県立小松高等学校)

実践発表「授業実践にむけての具体的手立てを探る～県内の実践から～」

第1部(小中学校)

☆ 「興味・関心を高め、基礎基本の定着をはかる手立て」

－5年・カレンダー作りを通して－

柿木千鶴(松任市立松南小学校)

☆ 「児童の意欲を高める『揭示』の試み」

－3年・パソコン・ホームページの活用－

新谷幸一(津幡町立条南小学校)

☆ 「生徒の興味・関心を高め、芸術科書道へとつなげる試み」

－3年・選択授業における取り組み－

岩田稚子(金沢市立高岡中学校)

*助言者:高 網子(石川県教育委員会七尾地方教育事務所学校指導係長)

第2部(高等学校)

☆ 「臨書から創作(漢字仮名交じり)の書への一つの試み」

－1年・自分が大切にしたい言葉の表現－

田中学(石川県立金沢中央高等学校)

*助言者:塩 泰尚(石川県教育委員会学校指導課指導主事)

パネルディスカッション報告

パネルディスカッション報告

第1部 小中学校

コーディネーター	： 林 昭悦氏（石川県立津幡高等学校）
レポーター	： 八田和幸氏（金沢市立港中学校）
パネラー	： 林 道子氏（金沢市立三馬小学校） 福島絹子氏（金沢市立長田中学校）
アドバイザー	： 高 絹子氏（石川県教育委員会七尾地方教育事務所学校指導係長）

・ レポーター 八田和幸氏

「第41回全日本書写書道教育研究大会東京大会」の参加報告（別紙参照）

・ パネラー 林道子氏

－文字感覚、文字意識を身につけるために－

小学校教諭の立場から、日々の取り組みの中で子供たちに基礎基本である文字感覚・文字意識を身に付けさせることの重要性を述べられた。特に新学習指導要領では1・2年生の時数が明示されておらず、日常書写の「国語」の時間と「国語」の時間以外の指導を関連づけて日常の書写力を高める必要がある。

文字感覚とは、文字を大切にすることであり、文字意識とは、文字を正しく見ることであり、その力を高めるには、点画ピースの操作が効果的であると述べられた。

・ パネラー 福島絹子氏

－「国語」授業時数減となることに向けて－

新指導要領での「国語」の時数減により、書写の位置付けが以前にまして、学校現場では書写の時間の確保が難しくなっているという実情が出された。

そのため、新出漢字の学習や、標語や主張文などの表現活動に関連づけることで書くことの喜びを伝えている。また、さらに行書の学習を深めることによって筆順を意識する姿が広がっていくという実践報告がなされた。

・ アドバイザー 高絹子氏

－1時間につける力を明確にした授業を－

書写は国語科の一つであり、そのねらい、「文字を正確に理解し表現する能力を養うとともに文字に対する関心を深め、文字感覚を養い文字を尊重する態度を養う」に添ってどんな力を子供たちにつけるのか明確にしながら授業を組んでいかなければいけないとの視点を与えられた。

基礎基本という点からみれば、最初の文字との出会い、低学年における基礎基本の高め方が大切であるし、また高等学校の芸術科書道につなげる上でも、中学校での行書を含む書写学習も正しく速く書くという視点から欠くことのできないものではないかと指摘された。

第2部 高等学校

コーディネーター	： 林 昭悦氏（石川県立津幡高等学校）
レポーター	： 酒井喜久子氏（石川県立河北台商業高等学校）
パネラー	： 久田英夫氏（石川県立金沢伏見高等学校）
	： 押木秀樹氏（上越教育大学助教授）
アドバイザー	： 高 絹子氏（石川県教育委員会七尾地方教育事務所学校指導係長）

・ レポーター 酒井喜久子氏(石川県立河北台商業高等学校)

「第25回全日本高等学校書道教育研究会」での参観授業を、ビデオ映像を交えながら紹介があった。

新指導要領で重要視される「漢字仮名交じり文」における古典学習との関連をどう扱うかという点においても、興味を持たれる授業だったという。

授業者は、古典の臨書活動に力を入れる一方で、自作の言葉を「言葉集め」として「漢字仮名混じり文」の題材集めも継続して行っている。また、筆法学習の一つの試みとして、「筆体操」を紹介した。墨つぎをせずに自由に筆を動かしながら、生徒たちは、書くことの楽しさを感じていたようであったと報告された。

・ パネラー 久田英夫氏(石川県立金沢伏見高等学校)

－自分の気持ちを表現することが「生きる力へ」と－

久田氏は、「漢字仮名交じり文」に取り組むにあたって、つぎの3点をどう考えるかが重要であるとしている。第1に、概念の規定・定義であり、日本語以外の表記をどう扱うかなどという問題も含めている。第2には、古典との関連について。第3に、言葉の選定についてである。漢字仮名交じりの書は誰でも読める書を書くことで作る人と見る人が同じ目の高さになり交流が図られると話された。

・ パネラー 押木秀樹氏(上越教育大学助教授)

－入り口をわかりやすく、学びの継続にむけて－

漢字仮名交じり文の授業によって「書」への切り込みを変え、展開を工夫することにより生徒の親しみが増し、生涯の楽しみとして学びが継続されるように授業が作られていかなければならない。そのためにも教師が課題を持って指導にあたることがさらに求められていると述べられた。

・ アドバイザー 塩泰尚氏(石川県教育委員会学校指導課指導主事)

－教師自身の意識変革によって授業を充実したものに－

理論と実践の両方ともが必要である、として、読めない中にも心情を読み取る力を養うことも書道の役割ではないかと述べた。また、評価については、教師の側に評価基準がないことの問題性を挙げ、これからは指導内容、ねらいにそった教材の選択、年間計画を立てるべきとの指摘をされた。

第41回全日本書写書道教育研究会 東京大会参加報告

金沢市立港中学校

教諭 八田 和幸

1. 会期 平成12年10月12日(木)・13日(金)
2. 場所 江戸川区立平井小学校・江戸川区立瑞江第三中学校
都立紅葉川高等学校・グリーンパレス・江戸川区総合文化センター
3. 授業内容

(1) 小学校の音部(平井小学校 第4学年)

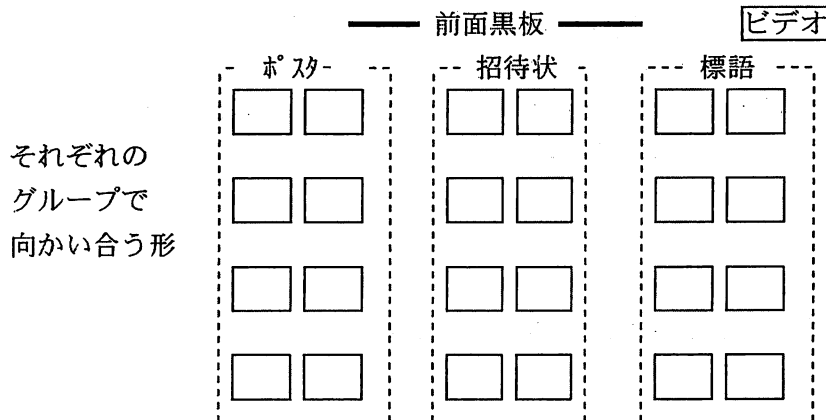
○小学校テーマ「自ら課題を見つけ解決し、生活に生かす書写書道教育」

○単元名「文字の中心・文字の大きさと配列」

○授業内容

課題別に、A ポスターグループ・B 招待状グループ・C 標語作りグループに分かれ、TT形式で指導に当たる。このとき、文化祭前で、作成した作品はそのまま活用されることが児童は分かっている。

(教室内机の配置)



① **リラックス体操** (T1) 体育時に準備体操を行うように

全員で唱和しながら、首・肩・腕・手首などを回す。

〃 , 姿勢の確認し、空書きで筆使いの練習をする。

低学年時から継続して行われ、基礎・基本の定着の部分である。

② 本時の全体の課題確認 (T1) 「文字の中心・文字の大きさと配列」

さまざまに文字の大きさを違えた参考例(「廊下は静かに」「意見をはっきり言

おう)を示し、意見を交し合いながら、紙に対する適度な大きさ・配列を考えさせる。二行に分ける工夫など。

③**グループ毎の重点課題**を確認する。(T 1,T 2) ※ 児童が自らが課題を選ぶ形。

A ポスターグループ	B 招待状グループ	C 標語作りグループ
「文字の中心、はらい」	「文字の大小、配列」	「字配り、文字の大小」
1.硬筆で箱書き・骨書き (自分で練習用紙の作成) 太さや形、画の長短を確認する。一人一人書いている文字は別。「亜」「太」「和」「愛」「奈」など 2.毛筆(大筆)で練習 3.さまざまな色の 画用紙 に清書。 4.書いた文字の部分を切り抜き、字形を確かめる。	1.準備してあったビデオで書式・配列等を確認。 2.筆記具は各人自由。(筆ペン、小筆、フェルトペンなど) 3.実物投影機を利用しての自己批評、相互批評。 →いつもとは違う質感の紙に書いてみるのも一つの面白みがあるかも。 ここで、書写として扱うのは表紙作成のみ。本文の指導は、国語の学習として行う。	1.筆記具は各人自由。(筆ペン、小筆、フェルトペンなど)用紙の大きさは画用紙縦 1/2 2.実物投影機を利用して拡大しての自己批評、相互批評。 3.色画用紙の台紙に貼り、掲示。

出来上がったものを、前面黒板にまとめて掲示。自己評価カードを記入するとともに、互いに良いところを述べ合って授業終了。どの作品もきれいに仕上がっているので、どの児童も満足感・成就感を感じている様子。おそらく単元毎にきれいに掲示できる形を取っていて、児童もそれを見越しているからこそ、いっそう練習に身が入っているようだった。

(2) 中学校の部 (瑞江第三中学校 第3学年)

○中学校テーマ「**課題解決を目指し、日常化を図る書写学習**」

○単元名 行書のまとめ～行書の特徴に注意して書く～

(「四字の熟語」を書いてみよう)

○指導計画概略

- ・「修学旅行短歌」を作る中で、行書とそれに調和した仮名の学習 (2～3時間)
- ・行書の復習 (プリントによって) (2時間)
- ・行書のまとめ「四字熟語」(本時)

「座右の銘」

○授業内容

① 「日進月歩」を（手本も参考もなしで）行書で書く。

行書の特徴を簡単に整理・確認し、本時のねらい（四字熟語を書く中で、行書学習のまとめをすること）を知る。

② 「進」の筆順の変化に2種類があること知る。（**唐代の楷書**（光村書写教科書 p.5）と**漢代の隸書との比較から考えさせる。**）鑑賞の授業の要素を加えている。

③ 四字熟語 4 つの行書体を、行書漢字表（書写教科書巻末）を使って手分けして調べ、グループ毎に教え合う。

A「一意専心」 B「温故知新」 C「起承転結」 D「無我夢中」

※ **余裕のある生徒は**用意された資料から、指定されたもの以外の好きな四字熟語を選ぶ活動をする。（スピードの遅速への配慮）

※ 単に効率を考えるならば、特定の生徒（あるいは教師）が調べたものを、印刷して使えばよい。しかし、個々人が実際に活動を行い、グループで相談し、協力しながら活動するところに、意味があるように感じた。また、精神的にも成長してきた3年生であるからこそ、先を見通して、粘り強く活動できたように思われる。書写のおもしろさが、より分かる2・3年生でこそ、書写の授業数を確保して、授業を設定していく必要性を痛感した。

④ ③を練習する。

鉛筆で下書きした後、**筆ペン（フェルトペン）または小筆で**（筆記具の選択の幅）なぞり書き。**実物投影機**（→3台のテレビに映し出す）を使い、拡大して筆順を確認する。（「専」「起」）筆順の変化を確認する。（「無」「我」「夢」）

⑤ 友達の書いたものを見て自己批正し、行書の特徴を確認する。

(3) 小学校分科会から (資料3 参照)

・3つの視点からの実践について質疑応答が交わされた。

① 基礎基本の定着を図る

姿勢、執筆の意識化を図るために、体操を採り入れた。また、用具の準備、片付け方、扱い方に慣れるための効果的な教具の開発も行った。基本点画を身に付けるために、拡大文字への書きこみ・自分で作成した練習用紙の利用・学習カードの工夫など、自ら理解が深まる学習形態を指導に生かしていた。

② 自ら課題をもち解決する主体的学習

まず、試し書きと基準の文字との比較を行い、自己批評などを進めてめあてをもつ。その後、課題別の練習や書きこみ活動を進め、TTによる指導も行いながら、自分の文字の進歩を見ることで、成就感を得ることができると思われる。

③ 生活に役立つ学習

今回の授業案での新しい試みは、日常の書写活動の場面を書き出し、書写の年間指導計画に位置付けていることであった。他教科との関連でもあるが、班・係の表、新聞・観察日記、招待状・礼状、ポスター・看板など、およそ書く活動を関連付けている。ねらいがあいまいになる危ぐもあるが、生活に役立てようと試みているところに、正しく整えて書く意識の定着を図っていることが強く感じられた。

・指導助言から (都立教育研究所指導主事 劔持 勉先生)

新しい学習指導要領では、2学年まとめでの重点化が図られている。授業時数が限られていく中で、より**指導の明確化**がなされなければならない。

そのためには、各学年で押さえる内容をきちんと押さえ、上学年へ継続していくことが大切である。**書写の位置付け・基軸をしっかりとった上で他教科・総合との関連**を考えるべきである。国語科書写の年間指導計画を実態に応じて作成することが急務である。

TT指導は、2人で2人以上の効果を上げることが大切で、2人で進めることで学習が焦点化されないことも心配される。担任分担型でなく、子供の課題解決がよりよく進められる在り方を考えなければならない。

・今回参観したTT指導は、T1が他校の先生でT2が本校の学級担任だった。

T1の先生は自級の児童のビデオレターを作成して、T2級と学校間の交流を進めようとしておられた。ここにも、これからのTT指導の新しい取り組み方の可能性を感じた。

4. 全体会（全体指導）

（1）小学校

- ・ 講師 文部省初等中等教育局中学校課教科調査官 田中 孝一先生

書写書道教育は、言葉の獲得と大きくつながる。例えば、学習の基本である物事をまとめるや多方向から考えるなど、文字を正しく書くことは、体と心に言葉を入れていく活動である。書写教育の意義と価値は、今の時代ますます高まってきている。

これからの方向として、

- ① 教室で閉じない授業…地域に開かれた指導の在り方
- ② TT指導の問題…学習効率のみならず、教師の力量形成（複数で行うことによる指導の高まり）
- ③ 評価の工夫…目標に準拠したもの。**体系的に評価できるシステムづくり**という面からの意識を強く持ってほしい。

（2）中学校

- ・ 講師 文部省初等中等教育局中学校課教科調査官 河野 庸介先生

- ① 国語科書写は、文字言語の部分で育てたい内容が多くある。書写は大きな責任をもっている。
- ② 今回の中学校テーマは、自信をもって進めてほしい方向である。自己評価においては、自己批評の力をきちっとつけてほしい。また、日常化については、社会生活に必要な言語機能を養う上でも大切である。硬筆・毛筆の関連を図り、その流れを押さえてほしい。
- ③ 授業時数をきちんと確保してほしい。私たちは、**子供たちに文字を書く喜び**を育ててきただろうか。正しく書きたい子供への責任を果たしてほしい。

（3）高等学校・大学

- ・ 講師 文部省初等中等教育局高等学校課教科調査官 長野 秀章先生

- ① 高等学校では、漢字仮名混じりの書の学習で、創作メモの作成や題材の選定において、学習の主体化が進められていた。自分で題材を選び創作していくことは、自分で学習に責任を持つことになる。こうした活動が、文化の中で書道芸術を学ぶことになるのではないか。
- ② 大学では、シラバス（どのような授業を行うかの授業計画書のこと）の提示から多くのことがうかがえた。教員は綿密な計画を立てられるし、授業の見直し・再構成ができる。また、学生からは、事前に学ぶ内容がわかり、自己評価に役立てられる。

このような実態をもとに、小・中・高・大が一体となって書写書道教育を進めてほしい。

5. 研究フォーラム（資料4 フォーラム①～⑤参照）

〈第1部〉いま、何が一番問題か

〈第2部〉これからどうすべきか

- ・総括 全日本書写書道教育研究会 会長 藤原 宏 先生
- ・概略

これからの社会の変化に対応すべき動きとして、特に次の2点が挙げられる。

一つは**情報化社会**（IT社会）における**柔軟性**、もう一つは**国際化社会における自国の文化の尊重**である。しかし、忘れてはならないのは、背後にある人間を想定し、自己とつながっていくことを大切にするという教育の原点である。

目標は、一人一人の子供が自分の言葉を使える主体性のある能力を養うことである。「どの子も自分の文字を書いている。」という自覚と主体性を、書写書道の学習に生かしていくことである。これからは、今までのよさを生かしながら新しいものを採り入れる方向へ行かなければならない。

評価は、自己内評価を原則にし、自覚の継続化（どこがどう変わってきたか。それは、なぜか？）を大切にしたい。手本に似せることが目的ではない。**書を通しての感性の育成**が目的である。

6. 終わりに

今回の東京大会は、新学習指導要領を意識し、生きる力の要素の一つに確かな文字力があると考え、「生活に生かす書写・書道教育」を大会主題として掲げている。授業時数が限られる現状を考慮し、計画的に日常生活に生かすための工夫が随所に見られた。

しかし、分科会や研究フォーラムの意見を聞いていると、正しく整えて書くことの意義や重要性は、思ったほど教育現場で理解されていないことを感じる。「どの子も自分の文字を書いている」ことは、ただ書けるからよいといった性格のものではない。文字を書く行為そのものが社会生活で不可欠であり、また、自国の文化を理解し、育て、伝えていくことになる。このことを念頭に置いて、より実態に即した年間計画の作成と実行、体系的に評価できるシステムづくりを、関係機関と協力して進めていきたいものである。そのことが、新しい時代に沿った書写書道教育につながると信じている。

研究協議会報告

実践発表レポート

研究協議会のまとめ

興味・関心を高め、基礎基本の定着をはかる手立て
— 5年・カレンダー作りを通して —

松任市立松南小学校
柿木千鶴

児童の実態を大会テーマ
「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」
に照らし合わせて

《はじめに》

松任の広い田園地帯を校区とする松南小学校。豊かな自然に囲まれ、三世代家族がほとんどという家庭環境で育った子供たちが通ってくる。5年生は自分の思いが出せ、ぶつかり合いながらも笑い声が絶えない明るい学年である。一方で、授業中は集中して課題に取り組み、教師のアドバイスも素直に受け入れることができる。

子供たちは、話し合い活動などで『話し言葉によって心を伝えること』はよく経験していることである。しかし、心をこめて書くことで自分を表現し、読み手にその気持ちを伝えることができるということもまた知っている。さらに、どんなにワープロやパソコンが普及しても、手書き文字は大切にしたいという。この子達に、心をこめて字を書ける子、自分の書いた字が好きといえる子になってほしいという願いのもと、年間の計画を立ててみた。

書写に関しては四月当初、うまくなりたいけどどうしたらいいかわからない、準備や片付けが面倒、などという声が聞かれた。塾などで習っている子も少なく、書写用語も知らない子が多かったので、一学期はテーマにあるように「基礎・基本」を重点課題としてスタートした。一時間の授業の中で意欲が持続し、書いた字にも変化が見られるよう、指導を工夫するのを感じた。

それですら、用具の使い方や片付け方について、今までのやり方のどこが面倒だったのか考え、新しいルールを作ることにした。

次に、書きたい意欲につながるのは

- ① 自分の上達ぶりが分かる活動
- ② 回りから認められる喜び

という仮定に基づき、以下のように取り組みを始めた

《用具・掲示の工夫》

書き終わった半紙を床に広げた新聞紙においておくと、そのうちいっぱいになり、立ち上がることも出来なくなる。そこで、カレンダー1枚と新聞紙5～6枚でノート型のファイルを作り、書いたら順にはさんでいくことにした。表紙には自分の書写学習のめあてを大きく書くことで意識付けとした。また、使い終わった筆を洗うために一人ひとりビンを持ち、その中で洗うようにしたところ、教室の床の汚れも減った。

まとめ書きの作品は、包装紙を使った手作りの掛け軸にはっている。教室の前面には筆で書いた自分の名前も学級のめあてと共にはり、学級掲示の一つとしている。

また、教室には、意識して筆の文字の掲示を取り入れた。

《授業形態》

一時間の授業の中での学習過程も大まかな流れに沿って進めるようになってきた。

それは、

試書→自己批正→発表→練習用紙→まとめ書き

を基本にし、課題や子供たちの様子を見て調整して行っていることである。この流れのなかで、自分の課題を探したり、よくなったところを見つけたりしている。

例えば、教科書の手本を見ないで書いた試書に、基準を与えて赤ペンで自己批正させることで今日の課題をはっきりつかむことが出来る。そしてそれを発表し話し合いながら、共通の課題にすることができる。

練習用紙は籠書き、骨書き、枠だけ、などいろいろ用意し、飽きずに取り組めるようにしている。特に組み立てがポイントとなる字については、点画ピースを用いて作業することで意識づけをした。

また、試書きとまとめ書きを提示して、友達の上達ぶりを認め合う時間も取っている。

《一学期・二学期前半の学習課題》

- ・ 基礎基本を教科書の課題を通して学ぶ。

月	題 材	目 標	指 導 内 容
4	春	準備や後始末 学習のルールの確認	・めあてを書いた 書写ファイル
5	金 銀	文字の組み立て方(左右)	・かけじく作り ・ピンを使った後始末
6	草 笛	文字の組み立て方(上下)	・筆づかい ・始筆・送筆・終筆
7	広 場	文字の組み立て方(たれ)	・部分の大きさ ・位置関係
9	時 間	文字の組み立て方(かまえ)	・ゆずりあい

《二学期前半までの成果》

このように、5年1組の書写授業では、1学期から教科書の課題に沿って、筆づかいや基本的な点面の書き方、位置関係、ゆずりあいなどについて学習してきた。課題がつかみやすいように、試書き・自己批正・まとめ書きなどのパターンの定着をはかり、道具の工夫なども指導してきた。初めは、毛筆の準備や片づけを面倒に感じていた児童も多かったが、手順を整えて覚えると、さほど苦には感じなくなったようである。考えながら練習し、まとめ書きのときも、自分の納得いくまで取り組む児童が増えてきている。

毛筆の授業だけでなく、漢字の学習や、算数ノートなどもていねいに書くように指導しているが、気をつけて書く子が増えてきたように思う。模造紙や画用紙などで掲示物を作るときも全体のバランスやまとまりを考えるようになっている。

《二学期中盤の予定》

思いを形に-カレンダー作り-

総合的な学習の一環ととらえ、指導案を立ててみた。

1、単元名 わたしたちの地球

2、活動名 一思いを形に「カレンダー作り」

3、活動の目標

- ・環境問題に関心を持ち、調べたり考えたりしたことを字で表そうという意欲を持つことができる。
- ・基礎基本を大切にしながら、のびのびと楽しく字が書ける。
- ・自分の書いた字をパソコンに取り込み、カレンダーを作ることができる。

4、指導にあたって

基礎・基本を大切にしながら、教科書の題材に添って書写の授業をしてきたが、お手本通りにうまく書くことだけが本来の目的ではない。『心をこめて書く』ことで、『思いを表現すること』にも取り組んでみたい。さらにその思いを、友達や家族と共有することはできないだろうか。そんな思いで一年の折り返しの時期を迎えた。

5年1組では、2学期は国語の“一秒が一年をこわす”の学習から、環境問題について調べ学習に入った。大気汚染、森林伐採、動物の絶滅、・・・各自興味あるテーマを選び調べ、考え、まとめて、発表する。調べ進むうちに、現代の便利な生活は、実は地球環境の多大な犠牲の上に成り立っているということに気づいていく。そして、今の自分たちの暮らしを振り返ってみた時、考えなければならぬこと、しなければいけないことがたくさんあり、それを何らかの方法で伝え合う必要性も感じるであろう。

本活動では、自分の思いを表現する一つ的手段として“字を書く”ことをとらえ、字句の選定から一人一人に考えさせたい。その際、一年間通して追っているテーマ「人とのかかわり」や、二学期の重点分野の「環境」について話し合いを深め、自分が大切にしたいものは何かということに迫りたい。また、発信された友達の思いを受け止め、共有する場も持ちたいと思う。心を伝える側と、受け取る側とのかかわりの中で、さらに深く自分を見つめ、成長して行ってほしいと願う。

子供たちにとっては、カレンダーを作る、という具体的な目標を持つことが、書きたい気持ちへの意欲付けになると思われる。そして、取り組む中でこれまでの学習をふり返り、基礎・基本の定着にも繋がるだろうと予想される。また、クラスの友達が、どんな考えでどう書くのかより興味を持ってみることもできるであろう。自己評価、相互評価の両方を組み合わせ、楽しく、心に残る活動にしたい。

5、指導計画（全14時間扱い）

第一次 現在の地球環境について問題意識をもつ・・・1時間

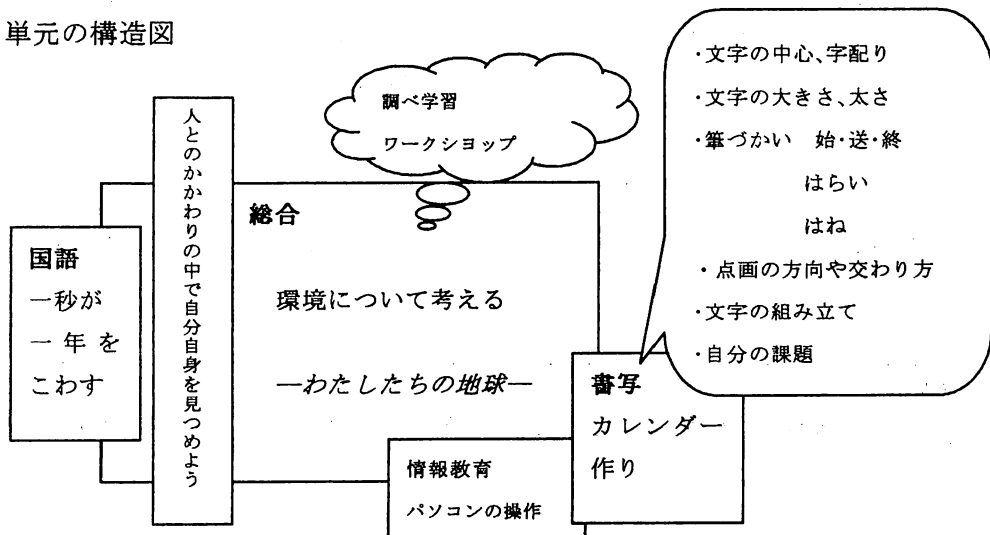
第二次 各自興味のあるテーマをしぼり調べ学習をする・・・5時間

第三次 考えたことをもとに思いを表現する・・・6時間

- ・字句、用紙の選択・・・テーマに沿ったもの
- ・試書きと課題の確認（本時）
- ・練習と自己批評・相互評価
- ・まとめ書き
- ・パソコンに取り込み、カレンダーを作成する

第四次 環境問題について、ワークショップ形式の発表会をする
・・・2時間

6、単元の構造図



5・展開例（第二次の二時）

(1) ねらい 一人ひとりが自分の課題をつかみ、よりよい表現をめざす

(2) 授業の展開

学 習 活 動	配時	教師の支援 (○) と評価 (●)
1、学習のめあてをつかむ	3	
2、自己修正と課題の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の試書きを自己修正し自分の課題をさがす ・ 学習カードに書き込み、課題の確認をする ・ 課題について話し合う ・ 掲示されたポイントの中から自分の課題に当てはまるものを見つけ、カードに記入する。 	2 5 ○自己修正の後、学習カードを配布する (資料1, 2) ○共通の問題点がないか話し合う ○個別の課題について、一人ひとりが確認し解決できるように、筆づかい、字形、字配り、配列などのポイントを教室掲示する (資料3) ●適切に課題を見つけているか	
3、課題を意識しながら練習をする <ul style="list-style-type: none"> ・何枚も書くというより、ポイントを絞って練習する 	1 5	○机間巡視しながら個別に声をかけ、伸びを見つける (資料4) ●学習カードに記入されていることが生かされているか
4、次時の予告	2	○自己修正・相互評価をすることを告げる

《評価》

一人ひとりが課題をつかみ、よりよく書きたいという思いにつなげていったか

書写と各教科との関連

一 学 期	《書写》 基礎基本の定着 —教科書の課題を中心にして— ・準備や後始末 ・学習ルールの確認 ◎筆づかい、筆運び ◎文字の組み立て方 ◎位置関係 ◎ゆずりあい	《心を伝える》 (学) ディベート ・和食か洋食か ・1000円の食べ放題か 1万円のディナーか ・心を伝えるには 電話か手紙か ↓ ↓ 話す 書く	《総合テーマ》
二 学 期	心をこめて書こう —いろいろな学習を通して 学んだことを— ◆硬筆コンクール ◎ひらがなの筆づかい ◎文字の大きさ (総) “大切にしたいもの”を 字で表現してカレンダーを 作ろう	(図) お面作り (国) あなたへ 心の表現の仕方は いろいろある 言葉・黙・絵 文・音楽・身体 字・・・ (学) ディベート 行けるとしたら 過去か未来か	人 と の か か わ り の 中 で 自 分 を 見 つ め よ う
三 学 期	いろいろな活動に生かそう —1年のまとめをしよう— ◎書初めに取り組もう ◆6年生を送る取り組みの中で	(学) 家族へ感謝の気持ちを 送ろう (書く) (学) 心をこめて6年生を 送ろう	

〈思いを形に—カレンダー作り—〉

5の1名前 (松田 奈美)

これまで、5の1のみんなとはいろいろなことを勉強してきました。教科書の学習だけでなく、ルールを決めたり、調べたことを発表したり、賛成反対に分かれてディベートをしたり・・・そんな中で、人の意見を聞くこと、自分の考えをもつことの大切さが分かったはず。そして、自分の気持ちを相手に伝えることの大切さも。
今回は、みんなで考えたことの中から、人と人のつながりについてや、環境問題について、もう一度振り返り、今、自分が大切にしたいものは何か考えてみましょう。そして、それを心をこめて字で渡し、2001年のカレンダーを作りましょう。

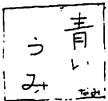
* 私の決めた言葉は 青い海

* 言葉に込める気持ちは
このことをたいせつとするということ。

ちまうのかんきょうを守ることにやわゆるがら

私のたいせつにしたいのは、青い海です。

* 紙の大きさ、レイアウトは
しまし、み



青が「おす」か「した」?

〈思いを形に—カレンダー作り—〉

5の1名前 (吉村 人)

これまで、5の1のみんなとはいろいろなことを勉強してきました。教科書の学習だけでなく、ルールを決めたり、調べたことを発表したり、賛成反対に分かれてディベートをしたり・・・そんな中で、人の意見を聞くこと、自分の考えをもつことの大切さが分かったはず。そして、自分の気持ちを相手に伝えることの大切さも。
今回は、みんなで考えたことの中から、人と人のつながりについてや、環境問題について、もう一度振り返り、今、自分が大切にしたいものは何か考えてみましょう。そして、それを心をこめて字で渡し、2001年のカレンダーを作りましょう。

* 私の決めた言葉は 木を大切に

* 言葉に込める気持ちは
木をきって家をびたりしていると、どしゃ

くずれがおきたり、木は二酸化炭素
素すて空気になってくれるしかし木がな
くなったら二酸化炭素だらけになる

* 紙の大きさ、レイアウトは



ほんしごまい分

習字でやった「を」が「おす」か「した」。

〈思いを形に—カレンダー作り—〉 ②

5の1名前 (南 麻莉菜)

* 試書



*
何回も何回もしばい
したけど、最後は
うれいできたのか
うれしかった。
じぶんをわがたはらう
じょうず"に"てました

* 課題

- ・文字の中心、字配り
- ◎文字の大きさ・太さ
- ・筆づかい (始・道・終筆)
はらい
はね
その他
- ・点画の方向や交わり方
- ・文字の組み立て (左右・上下・内外)
- ・自分の課題

〈思いを形に—カレンダー作り—〉 ②

5の1名前 (磯部 悠治)

* 試書



*
今までのしゅうじと
少しちがうよ法気が
しました。
楽しかったです。

* 課題

- ・文字の中心、字配り
- ◎文字の大きさ・太さ
- ・筆づかい (始・道・終筆)
はらい
はね
その他
- ・点画の方向や交わり方
- ・文字の組み立て (左右・上下・内外)
- 自分の課題

たて画

十

中半

点

犬

南方

点馬

犬立魚火心状魚

左払い

人

左 右

文 火 月

右払い

文

父 矢

足

接し方

丸 十

先生

言半	夕	口
文空	広	日

(資料 3-0; 揭示用)

出典: 續木湖山・大塚鉄陽著
書写のてし百科 (岩崎書店)

折れ

田

田 田 田 田 田 田 田

丁 員 一 一

田

折れ

まがり

元

礼 光 包

九 花 見

元

まがり

はね

小

町 村

小

はね

そり

代

式 心

風 紙

代

そり

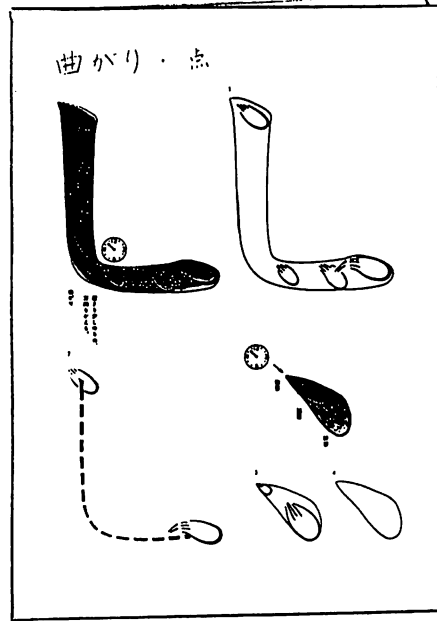
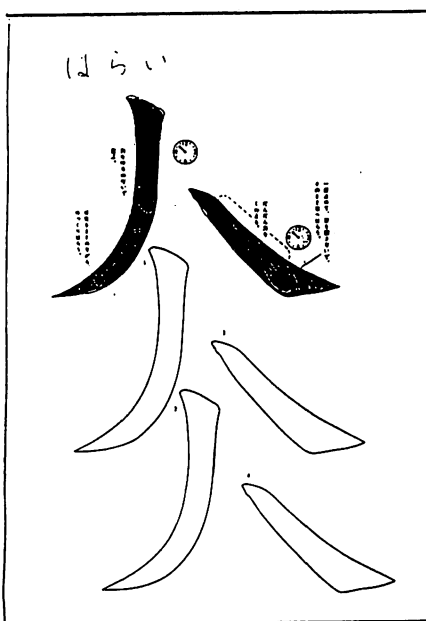
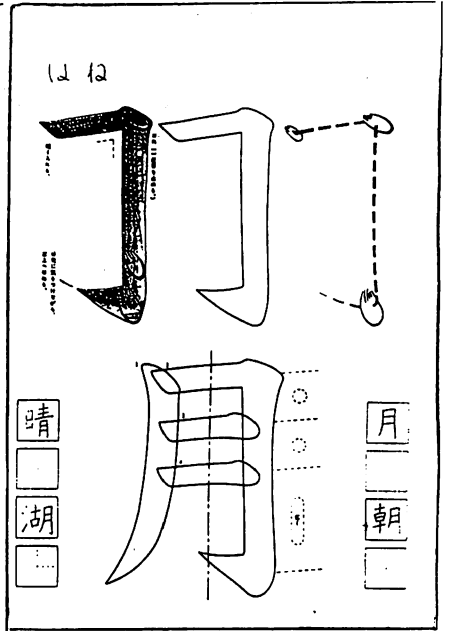
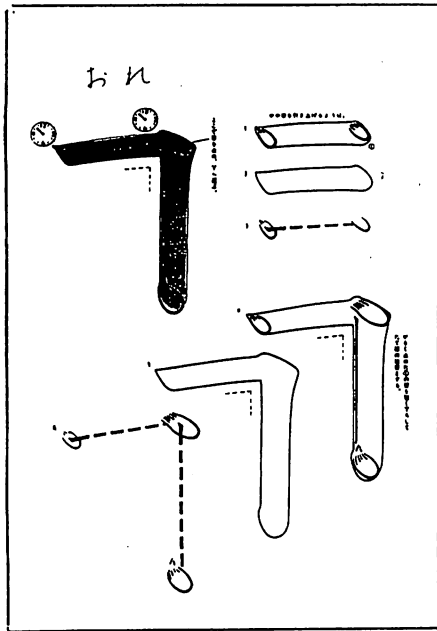
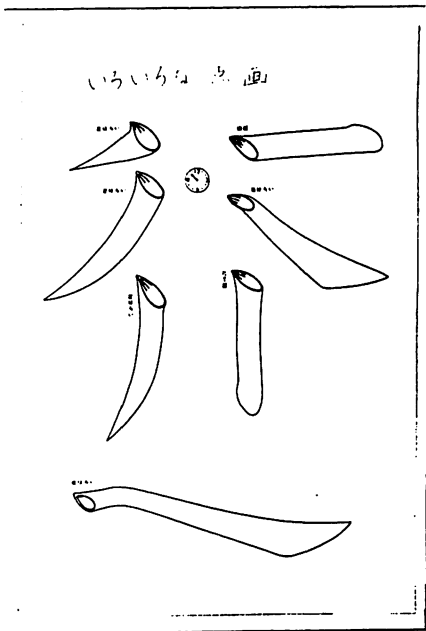
青

青青青青青(青)青

青

青

(資料 3-②; 掲示用)



(資料 4 ; 練習用紙)

《授業を終えて》

5年生の子供たちとは、実は3年ぶりの“再会”であった。松南小学校に転勤になって初めて受け持ったのが、この子達が2年生だった頃の学級だったのである。本年度4月、高学年の仲間入りをし、ちょっぴり照れくさそうに、しかしやる気いっぱい顔を見せてくれる子供たちを前に、今年は何ができるかな、どんな力をつけていったらいいのかな、と思いをめぐらせながらスタートを切った春だった。

明るく、元気いっぱいの活動的な学年だったが、2学期が始まる頃になるとそろそろ思春期にさしかかってきたのか、自分を出すことに照れを感じたり、人の視線を必要以上に気にしたりという傾向も見られるようになっていた。しかし、もともと持っている素直さや優しさをもっと出しながら人と関わることはできないだろうか？一人ひとりが自分の思いや願いを持ち、それを友達と共有しながら成長していくにはどんな手だてを考えたらいいのだろうか？

そんな思いの中で、1学期から基礎基本を大切にしながら取り組んできた書写学習と、“人との関わり”をテーマに掲げる本校の研究とを絡めて、総合的単元を組んでみたのが、この「思いを形に—カレンダー作り」である。

カレンダーを作る、という具体的な目標を持つことが、書きたい気持ちへの意欲付けになると思われ、取り組む中で書写の基礎基本に立ち返ることになるだろう、という仮説を立てた。これについては、取り組み中の学習カードや、カレンダーが仕上がってからの作文を読むと、効果があったと思われる。

作文からは、子供たちが実にいろいろの考えでカレンダー作りに取り組み、うまくかけずに悩み、よりよく表現しようとしたかが読み取れる。この点においては私の予想を越えた感想もあり、大変うれしく思った。

例えば、子供たちははこう書いている。

—・・・。練習をくり返すうちに、もっともっと字がうまくなるようにと考えた。そしたら、もっともっと字がうまくなった。

実際にできあがったカレンダーを見てみると、まあまあいいのにできていた。いいのにできていて良かった。—

—・・・。すみをつけすぎるとにじんでへんなのになるから、すみをつけすぎないようにしました。うまくいきました。

出来上がったとき、こんなにきれいになっていて、びっくりしました。自分のへやにかざろうと思いました。・・・—

また、ある子は持ち帰ってからの家の人とのやり取りをこう書いている。

—・・・。家に持ち帰ってばあちゃんに見せたら、これを学校で作ったのかと聞いた。ばあちゃんは、上手にできたなと言った。—

家の人との会話が聞こえてきそうな文である。

「思いを形に」・・・しかも文ではなくて文字を書くことで表現するということは、子供たちにとっては、大変むずかしいことだったと思う。しかし、表現しようとして取り組んでいる時に考えたことや、友達の見解に耳を傾けたこと、出来上がったときの成就感は、これからも形を変えて子供たち一人ひとりの中に残っていこう。「書写」を通して行ったこの活動が、子供たちの中で生きた力として広がっていくことを願っている。

最後になったが、この実践を進めるにあたって私自身、周りの方々からたくさんのお支えを頂き、私の「思いを形に」できたことに心から感謝している。これからも人との関わりを大切にしたい教育実践をめざしていきたいと思う。

自分の思いをカレンダー作りに

南 麻莉奈

私は、「未来」と言う字を選びました。なぜ、「未来」の字を選んだかと言うと、未来に向けて、自然を増やしたいからです。

私は、「未来」という字を選ぶ時すごく迷っていました。なぜなら「未来」もいいけど、「希望」もいいなあと思ったからです。心の中では、両方とも書きたいと訴えているようでした。結局「未来」と言う字にしました。

私は、習字の時、「未来」の字に集中して、一つ一つをていねいに書きました。何回も失敗して、気に入るまですっと書きました。そして、やっと気に入ったのができた時、うれしかったです。

写真をとってカレンダーにして、出来上がりをみて、上手にできているなと思いました。

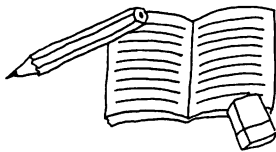


大切な家族

北尾 貴洋

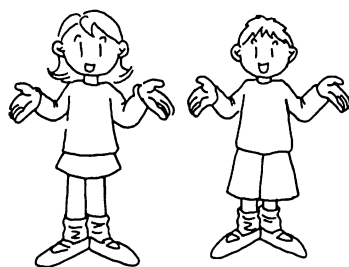
先生が、カレンダー作りをしますと言った時、ぼくはそんなに楽しそうとは思わなかった。でも、練習をくり返すうちに楽しくなり、家族に対して、「大切にしてくれてありがとう」と言う感じで書いていった。

何枚も何枚もくり返すうちに、筆で書くコツをつかんだ。書いている時は、こめた思いを忘れることがなかった。こんなうまい字をかけたと思う。でき上がったカレンダーを見て、思ったことは、家族に見せて、こめた意味を言ったら、喜ぶだろうな、ということだった。



2001年カレンダー作り

東 辰紀



5年1組は、世界でたった一つの2001年のカレンダーを作りました。ぼくは、未来に季節がなくならないようにという思いをこめて、「季節」と書くことに決めました。

最初はうまくかけなかったけど、だんだんとうまく書けるようになってきました。いよいよ色紙に書く時です。成功しました。それを持ったのをデジカメでとってもらって、パソコンでカレンダーを作りました。ぼくは、1く6月を選びました。

とてもよくできたので、よかったです。

思いを形にー「カレンダー作り」

丸田 綾子

「カレンダー作りをします。」

と、先生に言われたときは、何を書けばいいのかわかりませんでした。考えているうちに、前に、差別についてクラスで話をしたことを思い出して、仲間はずれや差別がないように「仲間」という言葉にしました。

初めて書いた字は、やっぱりへたでした。

「線は太いし、間はせまいし、はらい、とめもぜんぜんだめ！」

何回も何回も書いているうちに、うまくなってきた。本番の「仲間」ができました。少し、納得がいけない所があります。それは、「仲」の字のつくりの上下が、同じくらいの間隔になったことです。でも、「間」がうまくいったので、満足しました。

カレンダーができた時、使い終わっても大切にしたいなあと思いました。

カレンダー作り

吉森 成人

最初に先生がカレンダーを作りますと言った時は、えーっと思つた。だんだんむずかしく感じてきた。ぼくは、「木を大切に」にしようと思いついた。なぜそうしようと思つたかという、木がないと思がでなくなるから。それに、悪い空気をいい空気にしてくれるから。次にその言葉を筆で書く。僕は言葉が長いから、本番は半紙より長い紙を使う。練習は半紙2枚使つた。なぜか最後の字の「に」が小さくなつてしまう。本番は、長くかかつた。何枚書いても失敗作ばかりだつた。最後の1枚でやつとできた。それに最後の字の「に」が練習より大きくなった。パソコン室に行つて、先生に写真をとつてもらつた。写真をカレンダーにする日がやつてきた。ぼくは、ホームページを見ながら順番がくるのを待つた。自分のカレンダーができて、うれしかった。

思いを形に—カレンダー作り—

林 美穂

私は、「生き物」という字を選びました。なぜかというと、森林がどんどん切られて、生き物たちが住めなくなつてかわいそうだからです。

私は、この言葉を習字で練習していて、—こうすれば生き物たちも少しは多くなるかな、森林はもう切られないかな、とか考えていても、森林切られていくんだな、—

と、思い、かわいそうでした。でも森林は、トイレットパーパーにもなるし、いえを建てられるし、人間が生きるために切られていくんだと思ひました。

今は、

『森林がどんどん切られていきます』

というコマーションが出てきました。やつぱり、私のほかに森林を切らないでという人がいてよかったです。習字が仕上がつた時、うれしかったです。

カレンダーに思いをこめて

岡村 幸広

最初に先生が、カレンダーを作るといった。

一人ひとりちがう言葉を選んで、習字でその言葉を書いて、写真をとって、コンピュータに画像を送り込み、印刷してカレンダーにすることだ。

ぼくの選んだ言葉は、「協力」という言葉だ。ぼくがその言葉を選んだわけは、一人ひとりではできなくてもみんなで協力すれば、できないことも可能になるからです。

練習をくり返すうちに、だんだん習字もうまく書けるようになってきました。

自分なりに、よく仕上がったと思いました。

2001年4月から9月まで、ずっとかざろうと思いませんでした。

二十一世紀カレンダー作り

日鷹 美和

今は二十世紀。もうこの二十世紀も終わりです。もう二十一世紀に行く。その時のカレンダーを5年1組で作りました。

最初は、てきとうに字を決めて書いていた。でも、どんどん書いていくと、そのことがどんどん分かってきた。私のタイトルは「地球の夢」です。地球は今の自分のことをどう思っているのか、どう変わりたいのかを表現したタイトルです。

1回目書いた時には自分は習字をしているので最初からうまくかけていた。3回目より1回目の方が良かった。

写真をうつしました。変なものになって、うつしなおしをしました。カレンダーを見るまで心配だった。

半年までのカレンダーだけど、大事にしようと思っ

児童の意欲を高める「掲示」の試み

— 3年・パソコン・ホームページの活用 —

条南小 新谷幸一

ホームページ作成の動機

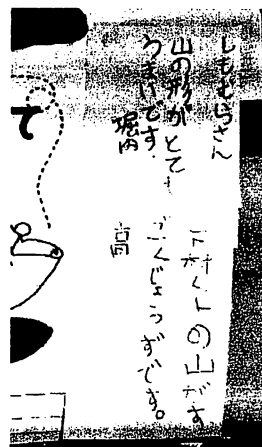
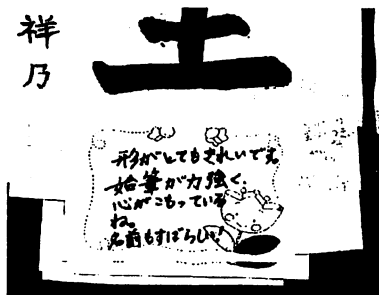
書写の児童作品について、今年度より条南小学校3年1組では、クラス内における児童作品の掲示の外、ホームページ上で児童作品を紹介している。児童は普段から書写を熱心に学習しているが、書かれた作品はクラスの中でのみ掲示される場合が多い。また、後に書いた作品を前の作品の上に重ねて貼っていくので、前の作品と後の作品で自分の上達を比べることが難しい。しかし、ホームページに作品を掲示し、前の作品と並べて紹介すれば、各作品を通して児童一人一人の上達を効果的にみることができると思われる。また、他のクラスや他の学年にも見てもらえる機会が増え、がんばりを認めてもらったり、アドバイスをもらったりする機会もふえるであろう。さらに、自分の作品が学校のみならずに見てもらえるということで、児童の意欲や向上心も増すとと思われる。

教室の掲示

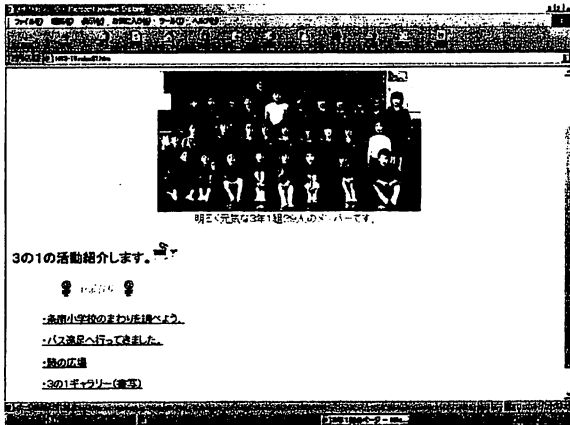
教室の掲示は教室の後ろに児童全員の作品を並べて掲示している。一人一人の作品は、台紙の上にはり、新しく書いた作品を上から重ねてはっている。



作品には丸をつけず、作品の下に教師のコメントが書かれた紙をはったり、児童のコメントが書かれた付箋をはっている。

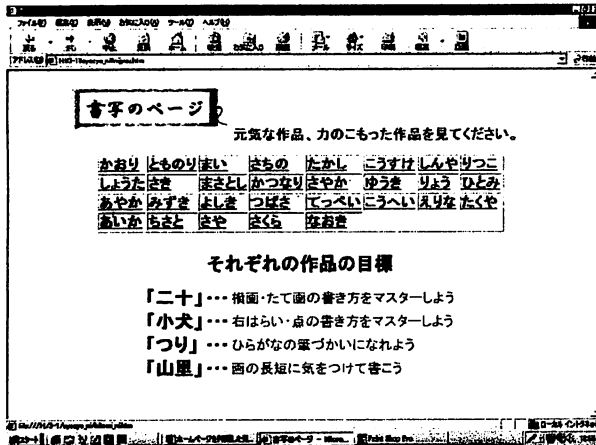


ホームページの様子



3年1組のページ

「3の1ギャラリー（書写）」という項目を設け、書写のページへリンクをはった。



書写のページ

児童一人一人の名前を入れた表を用意する。それぞれの名前にリンクをはり、それぞれの作品のページへ移動するようにした。また、各作品の学習目標を下に入れることで、見る人が何処にポイントをおいて見ればよいか分かりやすいようにした。



個人のページ

作品を並べて表示している。左が先に書いた字。各作品を通しての上達が分かるようにしていく予定である。

ホームページ掲載について注意している点

- ・プライバシーの問題から、校外には公開せず、校内でのみ見られるものとしている。
- ・一人一人の上達に気付かせるのが目的なので、一人一人のページを設け、本人の作品のみをそれぞれのページに掲載している。
- ・画像が重くなりすぎて開くのに時間がかからないよう、画像の容量を下げて見やすくしている。

ホームページ掲載のメリット・デメリットについて

児童作品を掲示してみたのメリット・デメリットについては、次のような点が挙げられる。

〈メリット〉

- ・学校中の人に見てもらえることができる。特に他のクラスの児童から見たという声がもらえる。
- ・みんなに見てもらえることから、意欲的に書写に望み、集中して書く子が増えた。
- ・自分の作品だけを並べているので、自己の高まりが目で見やすい。
- ・前に書いた作品を好きな時に簡単に見ることができる。
- ・CD-Rなどに保存することで、作品を学習の足跡として残すことができる。

〈デメリット〉

- ・作品をデジカメで撮る際に墨や紙の色が変化してしまう。
- ・作品の実際の大きさが分からない。
- ・作品の細部や筆の動きは分からない。
- ・作業に時間がかかる。

児童の意識の変化

書写のページを掲示して二ヶ月経った。児童がどれくらいホームページに興味を持っているか調べるためホームページを見に行ったことがあるかアンケートをとったところ、見に行ったことがあると答えたのは29人中25人であった。クラスのほとんどの子が自分の作品を見に行っている。見に行っていない4人の子に話を聞くとコンピューターがあまり好きではなく、休み時間は外や体育館で遊ぶからという理由であった。授業で時間を取れば見るであろうが、休み時間に見るということには抵抗のある子もいるようである。

コンピューターへの掲示に対してアンケートで気持ちを聞いたところ、嬉しいと言う意見やはずかしいという意見が多かった。恥ずかしくていやではないと言う子も多い。恥ずかしいので嬉しくないと言う子は1人であった。全体としては、みんなに見てもらえることがはずかしいけど嬉しいようである。今は校内だけで見られるページだが、校外にも公開してほしいと望んでいる子は25人、望まない子は4人であった。たくさんの人に見てもらえる、家族にも見せたいというのが主な理由である。こうした見てもらいたいという気持ちが学習意欲へとつながってきているように思われる。作品の仕上げの時間では真剣に筆を持つ子が増えた。また、今までは時間がくるとすぐに止めていたが、ホームページに掲示し始めると休み時間でも書かせてほしいという子が何人も出てきた。こうした意欲が上達へつながってくることを願っている。

今後行っていきたいこと

今後は教師のコメントや児童のコメントを作品に添えていきたい。ネットスケープゴールドを使うと簡単に児童はホームページに文章をうつことができるので、作品の下に枠を作るなどして、児童がコメントを入れやすいよう工夫したい。

また、作品掲載までの作業にまだ手間がかかるので、作業の簡略化を図りたい。半紙サイズの紙でも利用できるスキャナがあれば、作業は大変楽になるが、現在はA4サイズのスキャナしかないので、半紙を一枚一枚壁に貼ってデジカメで写している。また、暗く写ってしまうことが多いので、明るさの補正などにも時間を要している。撮影や写真の補正に時間を取らないような工夫を考えていきたい。

児童のアンケートの中で、たくさんの人に見てもらえる、家族にも見せたいという理由から、校外への公開を望んでいる子が25人もいた。家族の力強い励ましも意欲へと大きく関わるので、親も公開を望んでいる子に対しては校外へと公開できるような準備も考えたい。書写の作品には名前がはっきり載るので、校外へ公開することになった作品の名前には修正をかけて消すなどの手立てを取りたい。

終わりに

まだホームページを開いて2ヶ月半ほどしか過ぎていないため、児童の意識がどのように作品に影響してくるのか、どのくらい意識が持続するのかは分からない。今後も児童の反応を見ながら継続していきたいと思います。

3年選択授業における取り組み

～ 生徒の興味・関心を高め、芸術科書道へとつなげる試み ～

金沢市立高岡中学校 教諭 岩田 稚子

1. はじめに

平成14年度から新しい教育課程の下に授業が行われる。その結果、中学校第3学年においては、総授業時数 980時間のうち、「選択教科等に充てる授業時数」が 105～165 時間になるという。移行期間である現在、その時数の使い方がいろいろ模索されているが、3年の「選択授業」として、私が前任校（金沢市立金石中学校）で実践してきたことと、本校においてこれまでに実践してきたことを合わせて、ここに紹介したいと思う。

2. 「書写」の現状

これまで、中学校2・3年の国語の授業は、1週間に4時間、1年間（35週）で140時間実施されることになっていた。書写にはそのうちの15～20時間があてられることになっているのだが、実際は「書き初め」を書いてすませるだけの学校が多いのではないと思われる。

中学校2・3年生の書写の時間が、平成2年度から、わずかではあるが増えた（それ以前は国語の年間授業時数の「10分の1程度」であった）のにもかかわらず、この10数年間で、どれだけ生徒が充実した書写の時間を過ごせたかという、はなはだ疑問である。なぜなら、中学校1年生で1週間に1時間（1年間で35時間）の学習をした後、ほとんど書写の授業を受けずに卒業する生徒が大半だからである。

3. ねらい

書写に興味・関心をもっている生徒や、書くことが好きだという生徒に、少しでも多くの活動をさせて能力や適性を伸ばしてあげたいと思い、一昨年度から、3年生の選択授業で「書写」を行うことにした。毎年少しずつ新しいことを試みるようにし、生徒達がやってみたくて関心を示す題材を取り入れるよう工夫した。それが新たな経験となり、その楽しみを知ることによって、高校での「芸術科書道」へとつながっていけば……と考えたからである。

昨年度までの授業と、1年間の授業を終えた生徒の感想を参考にしながら、今年度の選択授業を始めることとなった。

4. 構成人数

本校の3年生は、9クラスで在籍 347人（1クラス38～39人）である。現在、選択授業は、1週間に2時間（月曜5限と金曜5限）行われている。月曜・金曜にそれぞれ11講座が設けられていて、私の担当する「選択国語C：書写に親しもう」（金曜5限）は、34人（男子6人：女子28人）が受講している。どの講座にどの生徒を所属させるかは、生徒の希望（4月中旬に第3希望まで書かせた）のほか、受け入れ可能人数や生徒の人間関係などを考慮して、3年の先生方が考えられた。（私は2年所属）

※ 前任校では20人程度だったので、参考手本を書いたり、1人ひとりを指導・助言したりする時間がゆったりあったように思う。

5. 活動場所

- ① 水道が近くにあり、準備・後始末がしやすいこと（⇐毛筆を使用する際の時間短縮）
- ② 広い机（または、床のスペース）があること（⇐条幅（半切）作品を書くのに好都合）
- ③ 掲示しやすい黒板等がなるべく多いこと（⇐作品の鑑賞をする時に便利）

以上3点を考慮して場所を割り当ててほしいとお願いしたところ、今年度は、「第1美術室」を使わせてもらえることになった。ここは室内に水道があり、一人ひとりの机は普通教室の机よりも大きい。また、上下に移動する黒板があるのでとても都合がよい。

※ 前任校では、「和室」（すぐ横の廊下に水道がある）で活動していた。それは、広いテーブルがあり、書いた作品を並べるのに非常に便利だったからである。また、突き当たりの部屋でもあったため、廊下を通る人はほとんどなく、条幅作品を書く時には廊下を使うこともできた。

6. 生徒の実態

5月12日（金）5限、初めて30人余の生徒が第1美術室に集まった。私が生徒指導の担当をしていることもあって、事前に3年の先生から「申し訳ないけれど、すごいのを何人か担当してほしい……よろしく」と言われていたので、どんな生徒が来るのか、楽しみでもあり不安でもあった。頭髪や服装等に指導を要する生徒が5・6人いたのには驚いたが、最初だったせいか生徒達はおとなしく話を聞いていた。

しかし、授業が始まってからは差が出始め、ほとんどの生徒（20人以上）は一生懸命課題に取り組んでいるのだが、課題によっては、落ち着いて座ってられない生徒や、習字セットを忘れたために何もできないという生徒が10人程度現れた。それでも、その都度、筆や墨汁を貸し与えたり、参考手本を書いてみせたりすることで、何とか取り組ませてきたというのが実態である。

7. 年間計画

3年 選択国語C

《 テーマ：書写に親しもう 》

月	学 習 内 容	時数
5	◆ オリエンテーション	1
6	◆ 篆刻にチャレンジ <ul style="list-style-type: none"> ・姓名印と雅号印の例を見て、白文と朱文があることを知る。 ・2字・3字・4字の場合の文字の並べ方を知る。 ・自分の名前の篆書体を調べる。 ・8分の大きさにいくつかデザインをする。 ・印刀で彫る。 ・試しに押す。 ・修正して完成させる。 	4
7	◆ 色紙にチャレンジ <ul style="list-style-type: none"> ・2～4文字で、座右の銘（自分の気に入った言葉）を捜す。 ・書式や名前の書き方を知る。 ・半紙や練習用紙に練習する。 ・色紙に書く。 ・印を押して完成させる。 ・作品の鑑賞会をする。 	4
9	◆ 条幅（半切）作品にチャレンジ <ul style="list-style-type: none"> ・3～14文字で、自分の書きたい言葉を探す。 ・書式や書体、名前の書き方を知る。 ・半紙や新聞紙に練習する。 ・条幅（半切）に書く。 ・印を押す。 ・仮巻き表装をして、完成させる。 ・作品の鑑賞会をする。 	5
10		
11	◆ 年賀状 <ul style="list-style-type: none"> ・文字（「謹賀新年」や干支など）の書体を調べる。 ・練習用紙にいくつかデザインをする。 ・はがきに書く。 ・作品の鑑賞会をする。 	3
12	◆ 書き初め <ul style="list-style-type: none"> ・書き初めの意味を知る。 ・書体を研究する。 ・半紙に練習する。 ・書き初め用紙に書く。 	2
1	◆ 古典にチャレンジ <ul style="list-style-type: none"> ・王羲之について知る。 ・「蘭亭序」について知る。 ・「蘭亭序」を半紙に臨書する。 ・自分の好きな部分を好きな大きさに書く。 ・合評会をする。 	5
2	◆ 1年間のまとめ <ul style="list-style-type: none"> ・学習したことの感想と反省を書く。 	1

8. これまでの学習を振り返って ※生徒の感想より※

(1) オリエンテーション

(2) 篆刻にチャレンジ 《資料参照》

- ☆ 本を調べていろいろな字を見たのが楽しかった。
- ☆ 彫刻刀で彫るのが難しかった。
- ☆ 彫るとき神経を使うので、いろんな失敗をした。今度また印を作るときがあったら、もっとうまく作りたいと思う。
- ☆ 印を作るのは初めてで、自分の字は細かくてつらかった。
- ☆ 印をつくるのは初めてなので新鮮な体験でした。石でつくるのも楽しそうだなあ。
- ☆ 印を作るのがむずかしかった。三角刀がないぶん苦勞したけど、わりと楽しくて良かったです。もう少しいいにできたらいいなと思いました。
- ☆ 印はガタガタになったけど、読めないというわけではないのでよかったです。
- ☆ 文字を赤く残した(朱文)。ちょっと難しかった。だけど無事に出来た。
- ☆ 印を押すときも場所が大事だとわかった。
- ☆ 石みたいな物でハンコを作りたいと思った。

(3) 色紙にチャレンジ 《資料参照》

- ☆ 色紙に書くときは楽しかった。
- ☆ 初めて色紙に書くので、すごく緊張して手が震えてしまって変になった。
- ☆ 色紙を書いてみて、それまでの字を選んだり、練習したりしていたことがすごく楽しかったです。色紙に筆を入れるときはすごくドキドキして緊張しながらやりました。そんな色紙なので、できあがった時はとてもうれしかったです。
- ☆ バランスをとるのが大変で、自分で満足 of いく作品を作るのはとても苦勞することだと思いました。
- ☆ 半紙でかくときと色紙で書くのでは、紙の質も違うのでいつもどおりに書くことが難しかった。色紙にかくときは、プレッシャー(?)にまけそうで、手が震えてしまった。
- ☆ とても書きづらかった。半紙と違ってすぐかすれてしまい、ところどころにじんだりした。うまくいったとは言えなかったが、まあまあできはいいと思う。(自分としては)
- ☆ 書くとき、筆がすべらなかったのでへんなのになった。

(4) 条幅(半切)作品にチャレンジ 《資料参照》

9. 昨年度までの学習での関わりから

(1998年5月～2000年2月)

(1) 進路決定の時に…

一昨年度、選択授業だけの触れ合いであった生徒の一人が、石川県立金沢辰巳丘高等学校の普通科・外国語コース（中国語専攻）に進学した。合格した時に、「書写の選択の授業は楽しかったよ。高校へ行ったら、また書道するわ。」と言ってくれたのがうれしかった。さらに「中国語の勉強したら、もっと書道のこと、分かるかな。」と続けた言葉が強く印象に残っている。書道を通して中国へと目が向き、それがきっかけで、中国語や中国の文化へと学習の対象が広がっていったとしたりうれしい限りである。そして、その成果がその生徒の書にフィードバックされていったとしたら、とてもすばらしいことである。

(2) 国語の授業の中で…

昨年度は3年生を担当していたが、2学期後半に、国語の授業で「万葉集・古今和歌集・新古今和歌集」の中から自分の好きな歌を選び、それを詳しく調べたものを模造紙に書いて発表し合うという時間をもった。大半の生徒はマジックやサインペンで書いていたが、選択授業の受講生が数名「こんな歌はやっぱり筆で書かんと雰囲気が出んよね。」と言って、時間をかけて毛筆で書いていたのがほほえましく感じられた。また、発表の時にそれを見た他の生徒達の中から「何か日本的でいいね」という感想も聞かれ、書のもつ雰囲気や味わいの一端を感じてくれているのだと実感した。

10. 今後の課題

これまで選択授業を実施してみた結果、題材や取り組ませ方によって、生徒によって興味をもつもの・あまりもたないものがあることが分かった。生徒に主体的に取り組ませるためには、生徒がどんなことに興味をもっているのかを推測し、臨機応変に題材や学習内容を編成し直すことが必要である。

例えば、篆刻の材料が消しゴムと石の時では反応が大きく違うように、「色紙」に書く代わりに「CDジャケット」に書かせるとか、「条幅作品」に仕上げる代わりに「巻物」にしてみるというように、書く対象を変えてみるのも一つの手である。また、生徒にとって、心に響く・意味が分かる題材を取り上げ、生徒が興味をもつレベルを考えて実践する必要があると思う。結局、主体的に取り組ませるためには、生徒の創造的な欲求が沸き上がるようくすぐってやる必要があるのではないかと考えている。

また、3学年ともに国語の授業時数が1週間に1時間減る（1年：4時間；2・3年：3時間）という中、年間計画を立てる際に、書写の授業をいかに組み込むか、選択授業といかにかかわらせていくかを充分考えることが必要である。

【朱文・二文字】



美幸

平成十二年六月 美幸刻

5組50番 渡辺美幸

＜前の篆刻をしての感想＞

- ・いいと思う作品3つ
関幸加、清水さん、山元さん

・感想

ほめるのは、けっこうおもしろがった。でも難しかった。もっと、いろいろな字でほめ、てみたほうがいいです。ほめ、ているとき、失敗してしまいました。のび、びんとくみしので、いつかまたする機会があったら、矢張り、なによりにしたいです。

【白文・二文字】



綾歌

平成十二年六月 綾歌刻

名前の篆刻をしての感想

1組36番 栗原綾歌

・いいと思う作品3つ

- ・「美幸」
- ・「小春」
- ・横山さんの印「鞠子」

・感想

消しゴムをほめるのはむずかしかったけど、
はかなかうまくできたに似て思った。
習字をするのが好きなので、たのしいです。
これから、習字以外のこともやりたい。

【白文・三文字】



早矢印

平成十二年六月早矢刻

【朱文・二文字（名前が平仮名の生徒）】



奈未

平成十二年六月みなみ刻

名前の篆刻をしての感想

5組44番 松永みなみ

・良いと思う作品3つ

・夕子さんのやつ

・美幸さんのやつ

・小春さんのやつ

○感想

消しゴムで削ったので「フイスイ」とほれて楽しかった。

もうちょっと、字もほりやすくなった感じがした。

ビックリンコーのやつ、うまくほれたし。

時間があつたので、文字を残すバージョン、文字をほす

バージョンの2種類もやってみた。消書には

うまくほれた文字を残すバージョンでやった。

小筆はキレイだったから、あんまりうまく書けなかった。

けど、先生が手本を書いてくれたから、消書はうまく

かけたし。

「名前の篆刻をしての感想」

4組42番 星野早矢

○竹内さん、金戸さん、諸江さんの作品

（感想）

始めは、字がよからなかったけど、自分の

消しゴムで、楽しくなって、2種類は、

して、1種類はうまくなったけど、2種類は

うまがなくて、失敗してしまつた。

1つは、自分の力にできてよかった。

希 望
綾歌書

近 未 来
由希子書

愛と信義
高岡中三年 紙子繪

燃えよ闘魂
高岡中三年 室井典子

山光澄我心
高岡中三年 田辺由貴

真実一路
高岡中三年 藤井

山光澄我心
高岡中三年 米林由貴

雄大な景色
高岡中三年 小島千乃

不断の努力
高岡中三年 山元奈栄

「臨書から創作（漢字仮名交じり）の書へのひとつの試み

～自分が大切にしたい言葉の表現～」

石川県立金沢中央高等学校教諭 田中 学

はじめに

新学習指導要領において注目すべき点のひとつに、これまでは「能力→感性→心情」の順であったのが、今回から「心情→感性→能力」と情意面を重視したものになったことがあげられる。この「能力重視」から「心情重視」の変化を長野秀章（文部省初等中等教育局高等学校課教科調査官）は、6月に東京で開かれた平成12年度高等学校新教育課程説明会中央説明会において、「芸術の日常化」という言葉で表した。

毛筆による「漢字」「仮名」の学習は、現代の日常生活においてはあまりにもかけ離れた題材となってしまった感がある。さらに現代の日本語（漢字仮名交じり）は多様な変化をしつづけている。「漢字仮名交じりの書」が必須領域になったというのも、こうした書き言葉と話し言葉の距離を近づけていく意図からきているのかもしれない。

しかし、これまでの「漢字」「仮名」の学習に対して「漢字仮名交じりの書」には古典となるべき作品が存在しておらず、現在は試行錯誤の状態といえる。現行の学習指導要領にもとづいた各社の教科書を見ても「漢字仮名交じりの書」は、教科書の終わりのほうに掲載されている場合が多い。これは教科書の掲載順に学習していくものだととらえたとき、「漢字仮名交じりの書」は「漢字」および「仮名」を習得した上に成立するということがいえる。

今後、「漢字仮名交じりの書」を行なっていくことをふまえて「漢字」の学習だけでどれだけ漢字仮名交じりの書の作品を書くことができるのかを今回試みた。

題材をこちらから提示したものではなく、「自分が大切にしたい言葉」にした理由は、生徒の内から出てくる思い・イメージを重視したかったからである。

1. 指導にあたって

本校は定時制高校であり、単位制を導入している（芸術科目は必須）。受講生徒の学年も一概に同学年ではない場合がある。今回は「書道Ⅰ」を必須科目として選択したクラスでの講義について報告する。

筆の基礎的な扱いを会得してもらうため、前期（本校は二学期制）の間、『九成宮禮泉銘』『孔子廟堂碑』の臨書を行ってきた。また、九月からは行書の特徴を踏まえた後、『蘭亭序』を取り上げた。

しかし、生徒が自分を表現できるような作品を作り上げるためには、もっと数多くの参考となる古典を鑑賞し、上の作品以外にも様々な古典（字形）があることを知ってもらわないといけない。

半年間にわたる臨書学習では「手本通りに書く」ことを重視してきた。本單元においては「自分で表現する」という意識を持って、偶然の結果が作品となるのではなく、いろんな表現方法に気づいてそれを活用し、作品を制作する際に自分の意図をきちんと反映・解説できるような姿勢でのぞんでいくように心がけた。つまり、臨書で獲得した技術はそのまま、にもかかわらず手本のコピーに陥らないような指導をしていかないといけない。そこで固定観念を壊すために、創作のテクニックをひとつひとつ取り上げていくことにした。

2. 単元計画

・ 1時限「字の見た目（印象）を変える工夫・方法—その1」

さまざまな「響」が印刷されたプリント（資料1）を配布。それを見て「それぞれの『響』を見て、そこからどういった音が聞こえてくるのか」をプリントに記入してもらおう。それらを回収し、生徒の意見を板書。まず、同じ書体（楷書）で書かれたもので比較して、印象の違いの原因は線の太細さにあることに注目してもらおう。手本なしで思いっきり太く「空」と書き、その作品を提出。

・ 2時限「字の見た目（印象）を変える工夫・方法—その2」

前回でも使った『響』のプリントを掲示。生徒の印象を板書する。ただし、今回は線の太さが同じでも、書体が（楷書と行書といった）違うふたつで比較。ここで、行書の速書きに適している、形が省略・変化するといった特徴を復習し、書く早さに着目してメトロノームの音に合わせて「うんと遅い」速度と「超早い」速度の2通りで「空」と書き、作品を提出。印象を変えるための2つの要素を知ってもらおう。宿題として「自分が大切にしたい言葉」を考えてくる。

・ 3時限「自分が大切にしたい言葉を書く—その1」

書体字典から選んだ数種類の『空』が印刷されているプリントを配布（資料2）。それぞれの字を前回呈示した二つの面——「線の太細」「書く速度の速遅」——で分類する。その後、数文字臨書して、上の二点の重要性を意識してもらおう。そして「自分が大切にしたい言葉」を書いてみる。

・ 4 時限（本時）

・ 5 時限「自分が大切にしたい言葉を書くーその 3」

自分で納得のいく、他に人に自分の言いたいことが伝わるように心がけて作品を完成させる。そののち、自己評価プリントで評価を行なう。

3. 授業計画（4 / 5）

活動	生徒の意識の流れ	教師の支援
出欠、準備		
前回書いた作品を返却	自分が大切にしたい 言葉を再確認	
	「自分が大切にしたい言葉を書こう」	
作品を書いてみる	他の人に自分の「大切に したい気持ち」をうまく 書けない（表現できない）	前回までに「見た目（印 象）を変える工夫を板書 机間指導等を行ない、 適切な太さ等を呈示
	『見た目（印象）を変える工夫、その 3』	
	仮名の作品を提示——「散らし」について——する 墨汁の濃さを変えて字を書いてみる 見た目（印象）を書ける工夫を知り、 自分の作品に取り入れる	
作品を制作していく		その言葉で、他の人に どういう気持ちを伝えたいのかを聞き、ヒントを 呈示
作品提出、後かたづけ		

4. 反省点、今後の課題

いろんな表現方法があるのは理解できたようであったが、それを自分の作品に反映させることまでは指導が不十分であった。感想には「いろいろできて楽しかった」という声もあれば「手本がないとわからない」という意見もあった。

響音
響音

響音

響音
響音

空 ¹⁴	空 ⁷	空 ¹
空 ¹⁵	空 ⁸	空 ²
空 ¹⁶	空 ⁹	空 ³
空 ¹⁷	空 ¹⁰	空 ⁴
空 ¹⁸	空 ¹¹	空 ⁵
空 ¹⁹	空 ¹²	空 ⁶
空 ²⁰	空 ¹³	

研究協議会報告

実践発表「授業実践に向けての具体的手立てを探る～県内の実践から～」

(小中学校)

「興味関心を高め、基礎基本の定着をはかる手立て」

—5年・カレンダー作りを通して—

柿木千鶴氏(松任市立松南小学校)

- ・ 子ども達の生活に毛筆の楽しさ喜びが入り込んでいる。1年の計画がしっかりと立てられていて自分の作品を作るという総合的な力まで付いている。
- ・ 基礎基本を大事にした上で情報教育と結びつけられたことによって、興味関心が高まっている。工夫された展開に敬意を表したい。
- ・ 書写と他教科の関連において電話か手紙かという題のディペードや詩で心の表現のしかたがいろいろあるということを関連づけられているが大変興味があった。
- ・ 教えるのが一番苦手な教科が書写。一人ひとりが自分の上達ぶりに目を向けるような授業ならば私のような苦手なものもやれそうだなと思った。
- ・ 子どもが一人ひとり自分の意志でかかわって、課題を持ち、主体的に取り組んでいる。カレンダーという発展的な取り扱いによって、書写としての力が生きて働く場が生まれ、基礎基本の力が相乗効果的に、より目標に達成することができる。

「児童の意欲を高める『掲示』の試み」

—3年・パソコン・ホームページの活用—

新谷幸一氏(津幡町立条南小学校)

- ・ 3年生という導入期を大切にしてほしい。筆を持たせる時は、字をしっかりと見せて明朝体で書き文字を意識させ、考えさせることが大事ではないか。そんな意味においては、ホームページのゴシック体はいかがなものか。
- ・ 基礎・基本とは何かは大事な問題である。ITの技術にしても、内容を検討して10年後の教育を考えながら、人間不在にならないようにすることが大切。
- ・ ホームページは学校内だけというので安心した。パソコンを道具として授業の中でどう使っていくか、考える余地はたくさんある。

「生徒の興味・関心を高め、芸術科書道へとつなげる試み」

—中学3年・選択授業における取り組み—

岩田稚子氏(金沢市立高岡中学校)

- ・ 中学校の3年間で書道に対する興味が切れることが往々にしてあるので、中学3年で書道に取り組むことは高校での芸術科「書道」につながるので、その意味でも素晴らしい試みであると思う。
- ・ 生徒指導に追われがちになっている昨今の中学校においても、選択授業でいろんな生徒と話をする機会が増え、「豊かな心を育てる」のテーマに近づいていると思われる。それは、また、教師と生徒との人間関係ができていく証拠ともいえる。
- ・ 書写を日常にくみ込んでいく必要を切に感じる。筆ペンなどを使用し、様々な場面で取り入れるよう心がけたい。そのような中、本物に触れさせるということを心がけたこのような実践は大切であり、発展的な選択国語の価値があったように思われる。

(高等学校)

「臨書から創作(漢字仮名交じり)の書へのひとつの試み」

—1年・自分が大切にしたい言葉の表現—

田中 学氏(石川県立金沢中央高等学校)

- ・ 新しい取り組みで、興味関心を引き出すことにチャレンジされていることに敬意を表したい。目標をしっかり定めて感じさせることが大切であり、子供に迎合した授業にならないよう、気をつけなければならない。
- ・ 書きたい気持ちを持たせ続け、次につながる目標をきちんと与えることが大切ではないか。子どもがどこかで身に付いたなあと思える喜びが感じられるようでありたいと感じている。
- ・ 高等学校の教科に関して興味深いアンケートがあった。「興味関心」は芸術科がトップ。「理解しやすい」では2番目。「意欲」はトップ。「生きる上で役に立つ」は下位だった。「国際協力」においては毛筆の役割がクローズアップされ、日本文化ととらえられているのに学校教育の中で生かされ方が足りないように思う。このような工夫を続けたい。
- ・ 生徒理解をし、どんな力をつけたいか、どんな目標を持たせたいか、そこまで考えて教育に臨む事が大切ではないか。生徒の実態に応じて芸術科をどう位置づけるか、十分検討しなければならない。

連 盟 の あ ゆ み
連 盟 役 員 一 覧
連 盟 規 約

石川県書写書道教育研究大会のあゆみ

～基礎基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育～

回	開催日	公開授業	記念講演	
			講師	演題
1	1990.11.19	金沢市立南小立野小学校2年 金沢市立野田中学校1年 石川県立金沢泉丘高等学校1年	久米 公先生 (文部省視学官・ 千葉大学教授)	「新学習指導要領のめざす 書写書道の学習指導」
2	1991.11.18	野々市町立野々市小学校1年・6年 石川県立養護学校 (学校公開・クラブ活動等)	讀木湖山先生 (帝京大学教授)	「児童生徒の心を引きつける 具体的な指導方法」
3	1992.11.18	金沢市立鳴和中学校1年	久米 公先生 (千葉大学教授)	「学習指導の最適化のために」
4	1993.11.11	金沢市立富樫小学校3年 石川県立金沢商業高等学校1年 石川県立金沢泉丘高等学校1年	田中東竹先生 (実践女子大学教授)	「江戸時代の書教育—川柳に見る手習い—」
5	1994.10.19	小松市立安宅小学校6年 小松市立女子高等学校1年	柳下昭夫先生 (東京家政大学講師・ 前教育課程審議会委員)	「文字感覚を養い自ら学ぶ意欲 を高める書写書道教育のあり方」
6	1995.10.20	鹿島町立越路小学校5年 ・研究発表(養護学校)	浦野俊則先生 (二松学舎大学教授)	「漢字は生きている」
7	1996.11.21	金沢市立弥生小学校4年 石川県立中央高等学校2年次 ・研究発表(中学校)	平形精一先生 (静岡大学教授)	「意欲を高めるための書写書道教育」
8	1997.11.21	加賀市立南郷小学校4年 ・研究発表(中学校・高等学校)	宮澤正明先生 (山梨大学助教授)	「実験を通して考える書写・書道」 —「手本が無くてかける」をめざして—
9	1998.11.2	内灘町立大根布小学校3年 ・研究発表(中学校・大学)	平形精一先生 (静岡大学教授)	「これからの書写・書道教育の方向と課題」
10	1999.10.19	七尾市立天神山小学校5年 ・公開学習(幼稚園) ・研究協議	久米 公先生 (大東文化大学教授)	「書写・書道教育における今日的課題」

石川県書写書道教育連盟のあゆみ

1987. 1. 23 有志が集い県下に校種一貫した書写書道教育研究組織設立に向けて懇談する会を発足させ(昭和62年) る。(1988. 2. 26迄に9回の会合を開く)

1988. 4. 22 石川県書写書道教育懇談会と改称し第1回の会合を持つ[金沢大学教育学部書道演習室](昭和63年) (1995. 10. 5迄に48回開催する。)

1989. 8. 29 石川県書写書道教育連盟設立総会【ホテル六華苑】
(平成元年) (平成2年度に第1回石川県書写書道教育研究大会開催することを決定)

平成元年度 石川県書写書道教育連盟役員(敬称略)

名誉顧問	金子曾政<元金沢大学学長>	
顧問	南 和男<石川県教育長>	
相談役	北西正二 坂口 敏 田島庄吉 久田久信 氷田茂良 横西 清	
会長	藤 則雄<金沢大学教育学部長>	
副会長	[石川県教育委員会学校指導課長]	三宅正敏
	[金沢市小学校教育研究会書写部長]	河本隆成<金沢市立馬場小教頭>
	[金沢市中学校教育研究会習字部長]	大野重幸<金沢市立金石中校長>
	[石川県高等学校教育研究会書道部会長]	佐藤政俊<金沢女子高校長>
	[石川書写の会会長]	山田泰正<鹿島町立越路小校長>
	[金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者]	法水光雄<金沢大学助教授>
理事長	[金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者] 兼 任	
副理事長	: 幼・保部: 嘉門久直<森本幼稚園長>	
	: 小学校部: 森川登夫<津幡町立中条小校長> 谷村修次<小松市立蓮代寺小校長>	
	: 中学校部: 松寺淳照<金沢市立森本中教頭>	
	: 高校部: 中山武久<津幡高校教諭>	
監事	吉田一郎<小松市立向本折小校長> 木本峰生<七尾市教育委員会学校教育課長>	
理事	: 県教委学校指導課: [小学校・中学校(国語科書写)担当指導主事] 永井志津子 [高等学校(芸術科書道)担当指導主事] 高沢幹夫	
*金沢地区	: 幼・保部: 青山洋子<みどり・かわい幼稚園副園長>	
	: 小学校部: 林 道子<南小立野小教諭> 中川晃成<館野小教諭>	
	: 中学校部: 干場和子<野田中教諭> 古本佳世<野田中教諭>	
	: 高校部: 林 昭悦<金沢女子高教諭> 石浦義彦<金沢泉丘高教諭>	
	: 障害児学校部: 南 進 <県立養護学校教頭>	
*加賀地区	: 小学校部: 穴田孝子<三谷小校長> 川筋登史己<向本折小教頭> 市村良二<木場小教諭>	
	: 中学校部: 阿戸壮一郎<丸ノ内中教頭>	
	: 高校部: 東野洋子<小松市立女子高教諭> 北室正枝<金沢西高講師>	
	: 障害児学校部: 川上千鶴子<小松養護学校高等部主事>	
*能登地区	: 小学校部: 西野和代<天神山小学校長> 福田教導<金ヶ崎小学校教頭>	

: 高校部: 嬉喜代子<飯田高校教諭> 大場豊治<七尾高校教諭>

事務局

: 事務局長: 永江芳教<金沢商高教諭>

: 副事務局長: 久田英夫<金沢中央高校教諭> 中川晃成<館野小教諭>

: 庶務部: 部長・中田稚子<森本中教諭> 副部長・宮嶋雅美<明和養護学校教諭>

: 会計部: 部長・佃さえ子<千代野小教諭> 副部長・八田和幸<鳴和中教諭>

: 研究部: 部長・金田京子<宇ノ気小教諭> 副部長・嵐 雪絵<金大付属中講師>

: 会報部: 部長・板橋法子<河南小教諭> 副部長・西尾恵美子<中島小教諭> 大坂育代<湯野小教諭>

: 研修部: 部長・八田和幸<鳴和中教諭> 副部長・北村千恵<山中小教諭>

: 調査部: 部長・大浦 努<大浦小教諭> 副部長・宮崎聡美<松波小教諭> 西川真理<野々市小教諭>

11.15 第4回全国大学書写書道教育学会・平成元年度全国大学書道学会
～17・平成元年度日本教育大学協会全国書道教育部門会《後援》

12. 1 第1回理事会 [金沢商業高等学校]

12.10 『石川県書写書道教育』(創刊号) 発行

1990. 5.18 第2回理事会 [金沢商業高等学校]

(平成 2年) 10. 1 『石川県書写書道教育』(第2号) 発行

11.19 第1回石川県書写書道教育研究大会

[金沢市立南小立野小学校・金沢市立野田中学校・石川県立金沢泉丘高等学校]

第3回理事会

1991. 2.23 第4回理事会

(平成 3年) 3. 1 『石川県書写書道教育』(第3号) 発行

6. 4 第5回理事会 [金沢商業高等学校]

10.30 『石川県書写書道教育』(第4号) 発行

11.18 第2回石川県書写書道教育研究大会

[野々市町文化会館・野々市町立野々市小学校・石川県立養護学校]

第6回理事会

1992. 3.26 第7回理事会 [金沢ガーデンホテル]

(平成 4年) 3.30 『石川県書写書道教育』(第5号) 発行

5.28 第8回理事会 [金沢中央高等学校]

10.20 『石川県書写書道教育』(第6号) 発行

11.18 第3回石川県書写書道教育研究大会 [金沢市立鳴和中学校]

第9回理事会

1993. 3.30 『石川県書写書道教育』(第7号) 発行

(平成 5年) 6. 4 第10回理事会 [金沢中央高等学校]

11.11 第4回石川県書写書道教育研究大会

[石川県立金沢商業高等学校・金沢市立富樫小学校・石川県立金沢泉丘高等学校]

第11回理事会

1994. 3. 31 『石川県書写書道教育』(第8号) 発行
(平成6年) 6. 4 第12回理事会 [金沢中央高等学校]
第4回石川県書写書道教育研究大会第1回実行委員会

**10.19 第5回石川県書写書道教育研究大会 [小松市立女子高等学校・小松市立安宅小学校]
第13回理事会**

12. 1 『石川県書写書道教育』(第9号) 発行
1995. 3. 30 『石川県書写書道教育』(第10号) 発行
(平成7年) 6. 6 第14回理事会 [金沢商業高等学校]
9. 20 『石川県書写書道教育』(第11号) 発行

**10.20 第6回石川県書写書道教育研究大会 [鹿島町立越路小学校・ラピア鹿島]
第15回理事会**

1996. 3. 『石川県書写書道教育』(第12号) 発行
(平成8年) 4. 25 第16回理事会 [金沢商業高等学校]
6. 6 第17回理事会 [金沢商業高等学校]
10. 『石川県書写書道教育』(第13号) 発行

**11.21 第7回石川県書写書道教育研究大会 [金沢市立弥生小学校・石川県立金沢中央高等学校]
第18回理事会**

1997. 3. 『石川県書写書道教育』(第14号) 発行
(平成9年) 6. 25 第19回理事会 [六華苑]

10. 『石川県書写書道教育』(第15号) 発行

**11.21 第8回石川県書写書道教育研究大会 [加賀市立南郷小学校・加賀市文化会館]
第20回理事会**

1998. 3. 『石川県書写書道教育』(第16号) 発行
(平成10年) 7. 18 第21回理事会 [六華苑]
10. 『石川県書写書道教育』(第17号) 発行

**11. 2 第9回石川県書写書道教育研究大会 [内灘町立大根布小学校・内灘文化会館]
第22回理事会**

1999. 3. 『石川県書写書道教育』(第18号) 発行
(平成11年) 6. 16 第23回理事会 [六華苑]
9. 『石川県書写書道教育』(第19号) 発行

**10.19 第10回石川県書写書道教育研究大会 [七尾市立天神山小学校・七尾サンライフプラザ]
第24回理事会**

2000. 3. 『石川県書写書道教育』(第20号) 発行
(平成12年) 6. 9 第25回理事会 [六華苑]
10. 『石川県書写書道教育』(第21号) 発行

平成12年度 石川県書写書道教育連盟役員 (敬称略)

名誉顧問 金子曾政<元金沢大学学長>

顧問 山岸 勇<石川県教育委員会教育長>

相談役 北西正二 坂口 敏 田島庄吉 久田久信 氷田茂良 横西 清

参与 吉田一郎 森川登夫 木本峰生 谷村修次 南 進 河本隆成
福田教導 永井志津子 中山武久

会長 藤 則雄<金沢経済大学教授・元金沢大学教育学部長>

副会長

[石川県教育委員会学校指導課長]	村井加代子
[石川県私立幼稚園協会理事長]	源 通 <妙源寺幼稚園園長>
[金沢市小学校教育研究会書写部長]	岡 満雄 <金沢市立夕日寺小学校教頭>
[金沢市中学校教育研究会書写部長]	金浦修郎<金沢市立城南中学校校長>
[石川県高等学校教育研究会書道部会長]	村西 一 <県立津幡高等学校校長>
[石川県特殊教育諸学校校長会代表]	太田永久 <県立愛育養護学校校長>
[石川書写の会会長]	丹後誠仁 <鹿西町立能登部小学校校長>
[金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者]	押木秀樹 <上越教育大学助教授> <前金沢大学教育学部助教授>

理事長 石浦義彦<県立金沢泉丘高校教諭>

副理事長

: 小学校部: 林 道子<金沢市立三馬小学校教諭> [市小教研書写副部長]
北野勝彦<小松市立稚松小学校校長>
西村由紀子<七尾市立有磯小学校校長>

: 中学校部: 桶成好江<田鶴浜町立田鶴浜中学校教諭>
森川 徹<津幡町立津幡南中学校校長>

: 高校部: 林 昭悦<県立津幡高等学校教諭>

: 盲・弱・養護学校部: 米光正弘<県立医王養護学校教頭> [県特殊教育諸学校
教頭会代表]

監事 富樫慶樹<金沢市立芝原中学校校長> 松井喜美子<県立中央児童館長>

理事

* 石川県教育委員会

[小学校・中学校(国語科書写)担当指導主事]	高 絹子 <埴田教育革新学校指導係長>
[高等学校(芸術科書道)担当指導主事]	塩 泰尚 <学校指導課指導主事>

* 金沢地区

- : 幼・保部： 青山洋子<みどり・かわい幼稚園副園長>
- : 小学校部： 大浦 努<不動寺小学校教諭> 中川晃成<菅原小学校教諭>
- : 中学校部： 福島絹子<長田中学校教諭> 古本佳世<鳴和中学校教諭>
- : 高校部： 永江芳教<金沢商業高校教諭> 久田英夫<金沢伏見高校教諭>
- : 大学部： 北室正枝<金沢大学講師>

* 加賀地区

- : 小学校部： 阿戸壮一郎<松陽中学校校長>
- : 中学校部： 小座間美智子<東和中学校教諭> 高市比呂子<東和中学校教諭>

* 能登地区

- : 小学校部： 帽子山瑞枝<堀松小学校教頭>
- : 中学校部： 山田寿一 <七尾地方教育事務所管理主事>
- : 高校部： 鱒喜代子<県立飯田高校教諭> 大場豊治<中島高校校長>
- : 盲・ろう・養護学校部： 清水徳典<七尾養護学校教諭>

事務局

- : 事務局長： 中川晃成<菅原小学校教諭>
- : 副事務局長： 岩田稚子<高岡中学校教諭>

- : 庶務部：
 - 部長・田中学<金沢中央高校教諭> 副部長・山口雅美<額小学校教諭>
 - 部員・北野京子<大根布小学校教諭>・柿木千鶴<松南小学校教諭>

- : 会計部：
 - 部長・西尾恵美子<福岡小学校教諭> 副部長・岸瑞代<大聖寺高校講師>
 - 部員・山沢聡美<中海中学校教諭>

- : 研究調査部：
 - 部長・八田和幸<港中学校教諭> 副部長・水上真由美<松任高校教諭>
 - 部員・西脇良樹<小丸山小学校教諭>・北村千恵<南郷小学校教諭>
 - ・坂井雪絵<大根布小学校教諭>・中島知子<小立野小学校教諭>

- : 会報部：
 - 部長・佃さえ子<松陽小学校教諭> 副部長・新谷幸一<条南小学校教諭>
 - 部員・磯野美佳<金大付属中学校講師>・寺井純子<日置小学校教諭>
 - ・中辻育代<粟生小学校教諭>・吉田美晴<中央小学校芳齋分校教諭>

石川県書写書道教育連盟規約

- 第1条（名称） 本会は、石川県書写書道教育連盟と称する。
- 第2条（本部・事務局） 本会の本部を金沢大学教育学部内におき、事務局を事務局長の在勤校におく。
- 第3条（目的） 本会は、授業研究を中心として、県内の幼稚園（保育園・保育所）・小学校・中学校・高等学校・大学（短期大学・専門学校）・障害児学校等の一貫した書写書道教育と書道文化の更なる充実発展に努めるとともに、会員相互の親睦を図ることを目的とする。
- 第4条（事業） 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
（1）研究会の開催
（2）会報の発行
（3）関連する学会・研究会・内外諸機関との連絡と協力
（4）講演会・講習会の開催
（5）調査研究
（6）その他必要な事業
- 第5条（組織） 本会は、県内の幼稚園（保育園・保育所）・小学校・中学校・高等学校・大学（短期大学・専門学校）・障害児学校の教員及び本会の目的に賛同するものをもって組織する。
- 第6条（役員） 本会に、下記の役員をおく。
会長 1名 副会長 若干名 理事長 1名
副理事長 若干名 監事 若干名 理事 若干名
事務局長 1名 副事務局長 若干名
（1）事務局には、次の六部をを設け、各部とも、部長1名、副部長1名、部員若干名をおくものとする。
・庶務部 ・会計部 ・研究部 ・会報部 ・研修部 ・調査部
（2）本会に、名誉顧問・顧問・相談役・参与を推戴することができる。
（3）役員を選出と任期は、下記のように定める。
（Ⅰ）役員は理事会において選出する。
（Ⅱ）役員は任期は一か年とする。ただし、再任は妨げない。
- 第7条（理事会） 本会の理事会は、本会の運営及び事業に関する重要事項を審議決定する。
（Ⅰ）理事会は必要に応じて、会長が召集する。
（Ⅱ）理事会は、第6条における、会長・副会長・理事長・副理事長・監事・理事・事務局長・副事務局長・事務局各部長によって構成する。
- 第8条（会計） 本会の経費は、会費及びその他の収入をもってこれにあてる。
- 第9条（会計年度） 本会の会計年度は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
- 第10条（監査） 本会の会計は、監事によって監査を受ける。

[附則]

- 第11条 規約の改訂は、理事会の議決を経なければならない。

平成 元年 8月 29日 制定
平成 2年 5月 18日 一部改定

中国品Ⅱ古硯・印材・筆・墨・硯・紙
国内品Ⅱ画仙紙・色紙・各種額縁・水墨画用品

文房四宝

文真堂

金沢市尾張町二丁目二一―二八
電話(〇七六)二六四―一八三六

東京書籍

北陸出張所：金沢市尾山町1-8 朝日生命金沢ビル
〒920-0918 ☎076-222-7581 FAX076-232-2719

書の心と智慧を凝縮した、
珠玉の名言を集大成！
初めての書の名言辞典！

書道

名言辞典

宇野雪村
西林昭一 [編著]
福本雅一

A5判・上製本・カバー付・ケース入り・本文七八八頁・カラー口絵四頁 定価七八〇〇円(税込)



中国三千年の書作品や古今東西の芸術理論を縦横に取り上げながら、
書の理論と美学の原理を分析・解明する。

書の美学

陳廷祐 著・成家徹郎 訳

四六判二八〇頁 定価二五〇〇円(税込)

飯島春敬編・A4判三九六頁 定価二〇九四円(税込)

実技書の古典

日本・中国を代表する漢字・かなの名書150余種を技法中心に鋭く解説する。臨書・做書作品を多数収録した書法百科事典

入木筆



練習にも 作品にも 最適品

株式会社 博文堂本舗

〒639-1134 大和郡山市柳1の1
TEL 大和郡山 0743-52-3251
FAX 0743-52-3253

◎ぼくえき本格派



中墨タイプ
桐油煙
桐華墨液
500ml



中濃タイプ
菜種油煙
天爵墨液
500ml

墨磨職人SS型
斜めになった墨池碗
にこそ磨墨ノ極意が

〒630-8357

株式会社 墨運堂

奈良市杉ヶ町39-1
TEL(0742)26-5611

作品制作用から練習用まで常に良心的

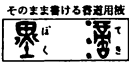
伝統と技術をほこる純墨



油煙磨墨液
天衣無縫

純松煙磨墨液
松潤

書芸吳竹



個性ある色調
油煙・青墨・茶墨・炭墨・各種



紫紺系黒
純黒
青系黒
濃墨
作品用磨墨液

株式会社 吳竹精昇堂

〒630-8670 奈良市南京終町7-576 電話0742(50)2050 東京・札幌・仙台・福岡

伝統的工芸品指定 熊野筆
高級書道用筆墨硯

(株)久保田徳

筆匠 竹場

☎731-4215

本店 広島県熊野町 ☎(082)854-0009番地

東京 東京都台東区台東3-42-4

書道殿堂 東京久保田号ビル



伝統的工芸品 熊野筆製造
併設全日本書作家練成道場

熊野筆センター
株式会社



本社 〒731-4200 広島県安芸郡熊野町1897 TEL082(854)001940
大阪営業所 〒580-0014 松原市岡6丁目5-50 TEL0723(35)0605
東京営業所 〒225-0004 横浜市都筑区荏田東3-1-15-201 TEL045(942)4119
"アンテナショップ"
熊野筆センター 広島店 〒730-0013 広島市中区八丁通5-2-9 TEL082(222)1919

●因州産紙 ●書道用紙 ●洋紙板紙 ●包装資材

登録商標

株式会社 因州屋

〒680-0912 鳥取市商栄町155番地
TEL085724-6611 FAX085727-1811
E-mail insyuya@apionet.or.jp

高級用紙類 各種特注部 器具製作
高級木製類 各種扉部・新立

株式会社 サン美術工芸

933-0941 本社 富山県高岡市内免4丁目-6-33
TEL 0766-21-6112 FAX 0766-25-3851
E-mail: http://www.media-pro.co.jp/~sanbi

Eメール: san@p1.tcnnet.ne.jp

額

株式会社 大島

新編マークは高級額のシンボルマークです。

◆事業内容 造墨・和紙・日本画・洋紙・封筒・特注品・原紙・衝立・軸装の製造販売

●本社/広島県中區上下町上下1513-1 ☎084762-3517 (代) FAX084762-4528
●東京営業所/東京都三鷹市下連野1-16-5 ☎0422-42-3085 FAX0422-42-3251
●岡山営業所/岡山県春日町6-14-24 ☎08649-41-8161 FAX08649-41-8048
E-mail: http://www.oshima.co.jp

光村教育図書株式会社

〒141-0031 東京都品川区西五反田 2-27-4
TEL03 (3779) 0581 FAX03 (3779) 0266

平成十二年度

光村図書出版教科書準拠

小学校書写児童用教材

書写の練習

一・二年各上下 三～六年各一冊三二〇円(税込)

B5 拡大判 二八～三六頁 四色刷り

毛筆書写の練習

三～六年各一冊 四二〇円(税込)

B4判 各三二枚(六四頁)

中学校書写生徒用教材

中学・硬筆練習帳

B5判 四八頁 全学年共通 三五〇円(税込)

小学校書写指導用資料

毛筆書き方ビデオ

初・中・上級編 各九二二三円(税込)

VHS各巻 約三〇分 解説書付き

改訂版 字形と筆順 水田光風編著

四六判 二八〇頁 一五〇〇円(税込)

書道・水墨画用品専門店

文房四宝 絃 貴 堂

〒920-0002 金沢市千木1丁目33-1 TEL・FAX (076) 253-0618

公的資格を取ろう!!

文部省
認定

硬筆書写・毛筆書写検定

・後援 - 全国都道府県教育委員会

・試験の種類と程度

4級…基礎的な技術及び知識

3級…一般の技術及び知識

2級…専門的技術及び知識

1級…高度な専門技術及び知識

・試験日(同日実施)

◎平成12年度第3回…13年1月28日(日)

◎平成13年度第1回…13年6月17日(日)

(毎年6月、11月、翌年1月の3回実施)

・試験地

全国主要都市 20名で試験会場設置可

・受験者必携参考書刊行(申し込みは協会へ)

硬筆:手びきと問題集(定価900円 予310円)

毛筆:手びきと問題集(定価1000円 予310円)

・受験料

	1級	2級	3級	4級
硬筆	4,120円	2,060円	1,550円	1,030円
毛筆	4,640円	2,680円	1,850円	1,030円

・特典

書写・書道教育に最適。大学・短大の入試で優遇。高校の単位認定に認められた。公的資格が得られ、進学、就職に有利。

■願書請求方法 - 宛名明記の返信用封筒(80円切手貼付)と切手200円を同封し、協会にご請求下さい。

〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-41-3 TEL03(3988)3581(代)

財団法人 日本書写技能検定協会



第11回

石川県書写書道教育研究大会

NSC 中村産業株式会社

中 村 栄 一

金沢市涌波3丁目6-13 〒920-0953

TEL(076)261-8569

FAX(076)224-8287

TOYO PHOTO STUDIO

東洋写真館

スタジオ撮影 ビデオ撮影 出張撮影
スクールアルバム コマーシャルフォト

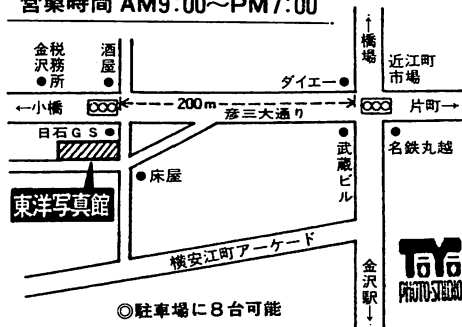
☎920-0901

金沢市彦三町二丁目五-五

☎(0762)31-6456

FAX(0762)21-1097

営業時間 AM9:00~PM7:00



新しい時代へ
新しい発想

企画・印刷・出版の分野から 新しい時代のメッセージ

熊登印刷株式会社

本社 ● 〒920-0855 石川県金沢市武蔵町7番10号
TEL 076-233-2550(代) FAX 076-233-2559
工場 ● 〒924-0013 石川県松任市番匠町293番地
TEL 076-274-0084(代) FAX 076-274-0016
グループ会社 ● 株式会社博文堂 シナジー株式会社

BF Big Friend オートモ



- スクールユニフォーム ● 堅 町 店 ☎ 076-262-3351(代)
- オフィスユニフォーム ● 城 北 店(城北S.C 2F) ☎ 076-252-1501
- スポーツウエア ● 野々市店(NOA21 1F) ☎ 076-246-3585
- ワーキングウエア ● 西 泉 店(ラパーク金沢 2F) ☎ 076-247-6003
- ● 諸 江 店(アルプラザ金沢 2F) ☎ 076-260-4121

教材・教具・文具

藤 田 教 材

能美郡根上町浜町甲19-3 TEL 0761-55-4183

書画芸術の明日を創る

筆・紙・墨・硯

も い ゃ ロ ャ

さん こう
筆 文

株式会社 贊 交 社

本 社 京・山科区勤修寺東出町4-1 ☎075(572)8964
二条店 京・中京区河原町通二条西入 ☎075(222)0390

あすを築く教育のいしずえ

Ⓜ 北 陸 青 葉

学校教材販売

書道セット

かきかたノート

本 田 教 材 社

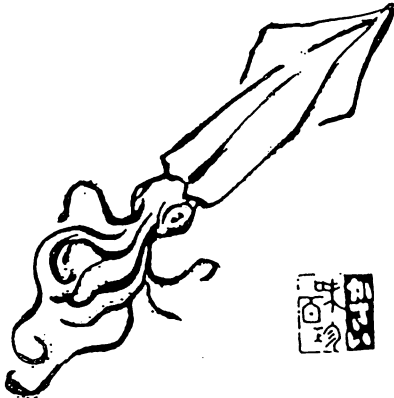
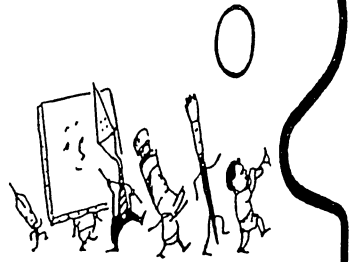
金沢市寺町1丁目3-26

☎ (076) 241-1339

デザイン・日本画・洋画材料・額縁

かわさき画材

金沢市寺町3丁目13の19 TEL (076)243-8244



味のかさい

本社 / 〒921-8044 金沢市米泉町8丁目8番地
 TEL (076) 247-2231
 FAX (076) 247-3612
 片町店 / 〒920-0981 金沢市片町1丁目7番17号
 TEL (076) 262-9333
 FAX (076) 262-9333

旅、こころ

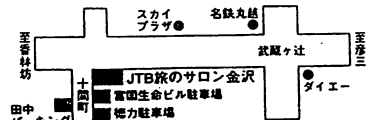
パッケージツアーはもちろん、お客様ニーズにお応えしたオーダーメイドの旅まで、旅のことならなんでも承ります。
 私たちは、旅する人の心を大切に、もっと楽しい旅をお届けします。
 旅する人の気持ちで……新しいJTB。



For Your Travelife

JTB旅のサロン金沢

〒920-0917 金沢市下堀町30(スカイプラザ前)
 海外専用 ☎0120-64-7082 国内専用 ☎0120-64-7072



※お車でご来店のお客様は上記の駐車場をご利用下さい。
 1時間無料券を差し上げます。
 ●営業時間 平日・土曜日/9:30~17:30 (日・祝日休業)

教材教具・視聴覚機器・OA機器・ワープロ・パソコン

株式会社 ダイシン

金沢市米泉8丁目105
 TEL 243-1555
 FAX 243-1783

カラープリント45分仕上! うのフォトスタジオ

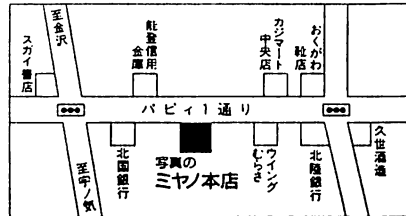
〒921-8171 金沢市富樫2-1-5 ☎247-1366

スタジオ写真

赤ちゃん・ご家族・成人式・ご入学・七五三・証明写真・商品撮影・
婚礼写真・葬儀用写真・etc

写真の **ミヤノ**

- 本 店/津幡町津幡ハ88-1 ☎289-4181
FAX 289-2143
- 森 本 店/マイモールモリモト ☎257-3780
- 新 神 田 店/金沢市入江1丁目28 ☎291-8022



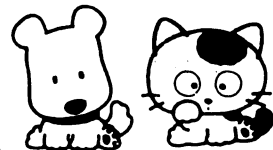
OA機器・事務器・文具・紙製品

百 々 商 会

〒920-0202 金沢市木越1丁目69番地

TEL・FAX 257-2065

学校教材・文具・事務用品



奈良教材文具店

松任市新田町10-3

TEL 076-274-6370

野球用品専門. スポーツ用品全般

辻野スポーツ

金沢・安江町アーケード街

TEL 263-7777(代)



株式会社

ニシナガスポーツ

〒921-8015 金沢市東力2丁目148番地1

TEL (076) 292-0388 (代)

FAX (076) 292-0588

広告看板一般

有限会社 **アサダ・デザイン看板**

代表取締役 浅田 徹

野々市町本町4丁目16-31 TEL 248-2367(代)

トコトコ

日本の旅

世界の旅

VITA



豊かな感動のステージへ

東急観光

金沢支店

TEL076 (222) 0109

君がいれば、
そこがキャンパス。

感性とテクノロジーが、
快適な学生服を創造します。

北国被服株式会社

〒921-8031 金沢市野町4丁目7-5
TEL(076)241-3457 FAX(076)244-3235

COLLABORATION

印刷・出版
MULTI-MEDIA

ともに考え、ともに伸びていける創造的な関係。
栄光プリントはコラボレーションを目指します。



Creative & Communication

株式会社栄光プリント

〒920-0806 金沢市神宮寺3-4-17 TEL(076)251-3076 FAX(076)252-2917

<http://www.yume.or.jp/ec/eiko>

信用第一。在庫豊富
建設資材総合センター

木谷金物株式会社

新店舗 石川県七尾市国分町イ部52-1
Tel (0767) 53-2186 (代)
Fax (0767) 53-5363

書籍・文房具・教材・教具

粟津書店

粟津祐治

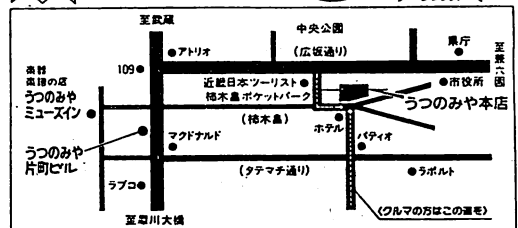
〒924-0855 石川県松任市水島町168
TEL 277-0303
FAX 277-2505

コクヨスチール製品・紙・文具
事務用品・OA機器・結納品一式

白井紙文具店

七尾市小丸山台2丁目48番地
TEL (0767) 52-0809 (代)
FAX (0767) 52-0879

“せせらぎの街 柿木島”
本 **うつのみや** 雑貨 **Oops!**
ウツミス



☎920-0962 金沢市広坂1丁目1番30号 TEL.076(234)8111(代)

LOUNGE
NEW FLAMINGO



金沢・片町(ヌーベルプラザセキ6F)
TEL.(076)262-6808

ニューフラミンゴ

スナック 恵子

〒920-0981 金沢市片町2丁目21番6号(シンニチビル6F)
TEL.(076)234-3222

㈩ハローバッティングセンター

草野球から学童・中学・高校野球まで野球情報が満載
<http://www.nsknet.or.jp/~hellobc/index.htm>
E-mail:hellobc@nsknet.or.jp

〒920-0016 石川県金沢市緒江町中丁179-3
TEL/076-223-0541 FAX/076-223-0562
営業時間 AM 9:00~PM 11:00



金沢市片町2-21-6シンニチビル2F
Phone 076-262-1919 〒920-0981

諸紙・印刷・文房具・事務用品

鷹田弘文堂

代表 鷹田 弘

〒920-0831 金沢市東山3丁目10番43号
TEL・FAX 252-9341

三年
高橋
尚子

大好評 ○名前書きの指導にぴったり
あなたのお名前 ○長年使えるパウチ加工
の手本を ○中央線も入って見やすい
サービス

**ヤマガミの書道セットには
お手本ねーむがついてくる!**

ヤマガミ共育社
〒921-8001 金沢市高島3-154
TEL 291-1250 FAX 292-8008

あしたの教育を拓く

- 暁教育図書の教育図書・教材
 - 毎日の学習教材「はつらつ」
- 北陸暁図書販売株式会社**

金沢市石引4丁目4-4
☎(076) 232-2425(代)

石津表具店

京都市中京区壬生馬場町16-5
TEL 075 (812) 3318

小・中・高一貫した

書写・書道教育の

大阪書籍

〒 537-0001
大阪市東成区深江北2-1-1
TEL 06-6973-9801
FAX 06-6974-2691

日本画・洋画

壁襖
貼製
工作
事部

屏 | 額 | 掛
風 | 装 | 軸

美術
部

岡田錦成堂

安江町13表具屋小路 ☎ 金沢 221-3658

参考書・心理検査・教材

教育統計会

〒930-8656 富山市奥井町16-47
TEL (0764) 31-6676(代表)
FAX (0764) 31-5831
〒920-0806 金沢市神宮寺2丁目12-22
TEL (076) 252-1245(代表)
FAX (076) 251-8461

Life and Technology

INAMI 教材

PHONE (076) 222-0565 FAX (076) 224-0581



教材社

金沢・北安江

TEL 231-6773
FAX 231-6940

学校教材なんでも